

第 1 学年

教養系教育・基礎科学教育科目

美 術	52
統 計 数 理 学	53
情 報 リ テ ラ シ ー I	54
体 育	56
英 語 基 礎	57
英 語 I	58
心 理 学 概 論	59
経 営 学	60
郡 山 学/福 島 学	61
日 本 語 リ テ ラ シ ー	62
医 療 倫 理 学	64
基 礎 物 理 学	65
物 理 学 実 験	67
基 礎 化 学	68
化 学 実 験	70
基 礎 生 物 学	71
生 物 学 実 験	74
歯 科 医 学 演 習	75
歯 科 医 療 概 論	76
基 礎 歯 学 概 論 I	77
臨 床 歯 学 概 論	79
臨 床 心 理 学 I	80
歯 科 医 療 人 間 学 I	81
綜 合 演 習 1 D	82

美術（前期・2単位）

D①②-0201

科目責任者：内藤 良行（非常勤）

科目担当者：①内藤 良行（非常勤）

1. 科目の概要

「美術」は過去から未来への文化の伝承を担う営みであり、造形的な表現と鑑賞を通じたビジュアルコミュニケーションを展開する世界である。私たちの身の回りに存在している「美術」は、意識・無意識にかかわらず、私たちの生活に大きな影響を与えている。たとえば衣服の選択や日用品の購入、住居の環境構成など、それぞれの趣味やセンスとして認識され、顕在化される。「美術」の授業では、そんな私たちの生活に大きな影響を与える重要な文化の一つである「美術」について、よく知られる美術作品の鑑賞や基本的な表現体験を通して、認識を新たにするとともに、造形的な表現活動の楽しさを味わい、文化に対する広い見識と造形表現に関する理解の深まりをねらいとして学習活動を行う。

2. 一般目標

造形表現の意味や価値について学び、美術への興味・関心・理解を深めるとともに、文化的・精神的な豊かさについて考察する。

3. 到達目標

- 1) 造形表現に関心をもち、それらを通じた学びの意味を考え、意義深い学習活動を構築することができる。
- 2) 造形的要素を用いた表現を体験し、日常生活や生涯学習に活用できる文化価値を理解することができる。
- 3) 学習活動から得られた認識力、表現技術により、知性的・感性的人格の実現を目指すことができる。
- 4) ものやことに触れ、描画センスや配色の調和感覚、手の巧緻性を高めることができる。
- 5) 授業準備、計画実施、学習意欲等について、多面的に自らの姿勢を振り返り、自己改善することができる。
- 6) 情報や資料の収集に努め、主体的に授業に参加することができる。
- 7) 文化の伝承や民族性について理解し、人々の営みと文化の多様性、芸術活動について理解することができる。
- 8) 美術史学習から造形的な文化について洞察を深め、「美」を求めてきた意義について考察することができる。
- 9) 表現活動を通して、条件や状況に合わせて発想したり企画したりすることができる。

4. 履修の進め方

映像やプリント、板書等による講義、紙材や粘土、石材などを用いた表現実習を行う。表現活動では、主題を具体的に表すための発想力や構想力が求められる。授業進度に合わせた学習ペースを考え、主体的に授業に参加することが求められる。

〔準備物〕スケッチブック、鉛筆（H～4Bを3本程度）、水彩用具一式（絵の具〈12色〉、パレット、絵筆、筆洗など）、ハサミ、カッターナイフ、彫刻刀、スティック糊

5. 準備学習

予習：授業計画を基に表現内容について理解し、主題を明確にした構想を練り上げるとともに、表現の進め方や材料・用具を確認し、表現計画を構想する。（60分）

復習：スケッチブックの描画や作品を自己評価し、自分なりの表現のよさを味わったり修正を加えたりして進度の調整をする。（60分）

その他：手の巧緻性や集中力、人間関係力などの自己評価に基づき、学習姿勢や自己管理について考える。

6. 評価方法

提出された作品（スケッチブック）〈50%〉、毎時の授業感想（出席カード記録）及び授業総括レポート〈30%〉、出席状況〈20%〉により評価する。

提出作品については、主題の捉え方、表現技術（作品の質）の他、資料収集力、表現の丁寧さなど、授業への積極性・関心意欲等も加味した評価を行う。作品評価のため、スケッチブックを定められた方法・内容、期日で提出する。

筆記による試験は行わないが、出席確認を兼ねた授業感想カードの提出を毎時ごとに求める。また、授業最終日に授業全体を振り返る総括レポート（1500字程度）の提出を求める。

なお、提出されたスケッチブックは評価後返却する。

7. 教本

テキスト等については特に指定しない。実習材料として、スケッチブック、色紙（トータルカラー 65色）、紙粘土、篆刻用石材を各自購入する。授業に使用する資料等は、必要に応じて各題材ごとにプリント資料の配付、データ提示を行う。

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2	4／10	オリエンテーション，作品鑑賞・造形美の発見	本授業のねらい・学習計画等を確認し、身の造形美の存在を認識する。 （筆記用具・スケッチブック）		①
3 4	4／17	表現体験Ⅰ「線描」①	線による表現「基本形」（鉛筆・スケッチブック）		〃
5 6	4／24	表現体験Ⅰ「線描」②	線による表現「立体感・遠近感」（〃）		〃
7 8	5／8	表現体験Ⅰ「線描：自画像」①	線描のまとめ「自画像」①（〃）		〃
9 10	5／15	表現体験Ⅰ「線描：自画像」②	線描のまとめ「自画像」②・作品鑑賞（〃）		〃
11 12	5／22	表現体験Ⅱ「色で表す：色の性質，四季の平面構成」①	色の性質とデザイン要素，四季表現の構想（スケッチブック・色紙）		〃
13 14	5／25（月）	表現体験Ⅱ「色で表す：四季の平面構成」②	色の性質を生かした色紙による平面構成①（〃）		〃
15 16	5／29	表現体験Ⅱ「色で表す：四季の平面構成」③	色の性質を生かした色紙による平面構成②（〃）		〃
17 18	6／5	表現体験Ⅱ「色で表す：四季の平面構成」④	色の性質を生かした色紙による平面構成③・作品鑑賞（〃）		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
19 20	6／12	表現体験Ⅲ 「粘土でつくる」①	粘土による動物の立体表現 ①(スケッチブック・紙粘土)		①
21 22	6／19	表現体験Ⅲ 「粘土でつくる」②	粘土による動物の立体表現 ② (〃)		〃
23 24	6／26	表現体験Ⅲ 「粘土でつくる」③	粘土による動物の立体表現 ③・作品鑑賞 (〃)		〃
25 26	7／3	表現体験Ⅳ 「篆刻①」	高麗石による蔵書印の制作 ①[文字デザイン・転写] (スケッチブック・彫刻刀・高麗石)		〃
27 28	7／10	表現体験Ⅳ 「篆刻②」	高麗石による蔵書印の制作 ②[印刻] (〃)		〃
29 30	7／17	表現体験Ⅳ 「篆刻③」	高麗石による蔵書印の制作 ③[修正・完成] (〃) 授業総括レポート作成		〃

統計数理学 (通年・2単位)

D②－0303

科目責任者：菊地 尚志 (物理・教授)

科目担当者：①菊地 尚志 (物理)

1. 科目の概要

ある病気の発症の頻度に地域差がありそうだとか、あの病気には今回開発したこの新薬が有効だろう、と言った推測は医療の現場で頻繁に生じそう。経験や感覚に基づく判断が十分な場合もあるだろうが、より客観的な根拠に基づくやり方が統計学を用いた判断だ。統計学が教えてくれる「推定」や「検定」という技術がそれに当たる。授業ではこの技術の基本的な考え方を理解して初歩的でも現実に応用できることを目指す。その為に前期は、母集団と標本を結びつける確率分布について理解する。具体的には、一様分布、ベルヌイ分布、二項分布、正規分布を区別して理解する。後期に推定と検定の具体的な応用を習う。前期に学習した分布に加えて t -分布、 χ^2 -分布を覚え、平均値や分散についての推定と検定をできる様にする。

2. 一般目標

統計学の方法を理解して、歯科医師としての客観的、合理的な判断力を養う。

3. 到達目標

- 1) 統計資料を整理する。
- 2) 統計量を計算する。
- 3) 様々な確率分布を説明する。
- 4) 統計的推定ができる。
- 5) 統計的検定ができる。

4. 履修の進め方

板書を中心に授業を行います。授業をよく聞きノートをきちんと取って、さらに自分で主体的に「手を動かす」ことで理解を深めて行きましょう。

5. 準備学修

予習と復習をしっかりと行ってください。

6. 評価方法

定期試験で評価する。

7. 教本

統計解析がわかる 涌井良幸、涌井貞美著 技術評論社

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／9		授業への導入	B-4-2／	①
2	4／16	記述統計学	度数分布とヒストグラム	B-4-2／	〃
3	4／23		平均値と分散	B-4-2／	〃
4	5／7		分散の性質	B-4-2／	〃
5	5／14		統計学と確率論	B-4-2／	〃
6	5／21		母集団と標本	B-4-2／	〃
7	5／28	確率論	標本空間	B-4-2／	〃
8	6／4		独立な試行	B-4-2／	〃
9	6／11		確率変数の期待値と分散	B-4-2／	〃
10	6／15 (月)		ベルヌイ分布と二項分布	B-4-2／	〃
11	6／18		二項分布の計算	B-4-2／	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
12	6/25		二項分布と正規分布	B-4-2/	①
13	7/2		度数分布と確率分布	B-4-2/	〃
14	7/9		問題演習	B-4-2/	〃
15	7/16		問題演習の振り返り	B-4-2/	〃
16	9/3	推測統計学	母集団と標本	B-4-2/	〃
17	9/10	推定	平均値の区間推定	B-4-2/	〃
18	9/17		母平均の推定(分散既知)	B-4-2/	〃
19	9/24		演習	B-4-2/	〃
20	10/1		母平均の推定(母分散未知)	B-4-2/	〃
21	10/8		一般の母平均の推定	B-4-2/	〃
22	10/15		母比率の推定	B-4-2/	〃
23	10/22		母分散の推定	B-4-2/	〃
24	10/29	検定	統計学的検定の考え方	B-4-2/	〃
25	11/5		母平均の検定	B-4-2/	〃
26	11/12		母比率の検定	B-4-2/	〃
27	11/19		母平均の差の検定	B-4-2/	〃
28	11/26		臨床試験での検定	B-4-2/	〃
29	12/3		問題演習	B-4-2/	〃
30	12/10		問題演習の振り返り	B-4-2/	〃

情報リテラシー I (通年・1単位)

D②-0305

科目責任者：古山 昭 (生理・講師)

科目担当者：①古山 昭 (生理)、②黒田 栄子 (矯正)、
③芹川 雅光 (解剖)

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

情報化社会また、歯科医療においてもコンピュータを操作できる基礎能力は必須である。情報リテラシー I ではネット社会における適切な情報の取り扱い方法、ワードプロセッサによる文章の作成、表計算ソフトによる表とグラフの作成、プレゼンテーションソフトによるスライド作成、画像処理ソフトによる画像加工を習得する。

また、演習においては学生自ら作問を行う。将来、試験の様々な出題形式についての理解が深まり、コンピュータを使った試験形式にも早期から対応できる。

2. 一般目標

医療に対して探求力、解決力、発信力を獲得するために、コンピュータやインターネットの操作に習熟することを目的とする。

3. 到達目標

- 1) インターネットで適切な情報の取り扱いができる。
- 2) コンピュータを操作できる。
- 3) Wordを用いて文書を作成できる。
- 4) Excelを用いて表およびグラフを作成できる。
- 5) PowerPointを用いてプレゼンテーション用のスライドを作成できる。
- 6) GIMPを用いて画像加工ができる。
- 7) 課題に対しての問題作成とプレゼンテーションを行うことができる。

4. 履修の進め方

コンピュータの基本操作、ネット接続、ソフトウェアの操作を実際にコンピュータを使用して学習する。一学年主要科目の重要事項について問題作成を行う。

5. 準備学習

講義の最後に、次回の講義に必要な学習項目および、目を通すべき資料を提示し、簡単な宿題を課す。学習内容は10～15分で遂行可能なものとする。宿題は講義の前日までにメールで提出させ、教員がチェックして学生の習熟度を把握した上で講義を行う。

6. 評価方法

リクワイアメントで評価する。前期後期一回ずつの試験(40%)、課題提出(40%)、宿題提出(12%)、出席率(8%)により評価を行う。

7. 教本

定平 誠著「例題30+演習問題70でしっかり学ぶWord / Excel / Power Point標準テキスト」技術評論社

Noa出版編集部 編「情報倫理ハンドブック」noa出版

できるシリーズ編集部著「できるクリエイター GIMP2.8 独習ナビ」インプレスジャパン

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/15	オリエンテーション	授業の概要説明, 個人情報保護, 著作権の保護		① ② ③

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
2	4／20	情報倫理	コンピュータの基本操作, ウィルス対策, ネット接続など		① ② ③
3	4／22	ワードプロセッサ①	Wordの基本操作, 文書作成		〃
4	5／13	ワードプロセッサ②	文書デザインとレイアウト, 書式設定		〃
5	5／20	ワードプロセッサ③	オブジェクトの設定, 図の応用		〃
6	5／27	ワードプロセッサ④	ラベルの作成		〃
7	6／3	表計算①	Excelの基本操作, 表の作成		〃
8	6／10	表計算②	計算式の入力, 関数の応用		〃
9	6／17	表計算③	グラフの作成		〃
10	6／22 (月)	表計算④	データの整理と検索		〃
11	6／24	表計算⑤	表計算弱点補強		〃
12	7／1	プレゼンテーション①	Power Pointの基本操作 スライドの作成		〃
13	7／8	プレゼンテーション②	スライドのデザイン, スライドの編集		〃
14	7／15	試 験	前期試験		〃
15	7／22	プレゼンテーション③	自分の趣味をプレゼンテーション		〃
16	9／1	プレゼンテーション④	自分の趣味をプレゼンテーション		〃
17	9／8	プレゼンテーション⑤	自分の趣味をプレゼンテーション		〃
18	9／15	プレゼンテーション⑥	自分の趣味をプレゼンテーション		〃
19	9／29	プレゼンテーション⑦	自分の趣味をプレゼンテーション		〃
20	10／6	プレゼンテーション⑧	自分の趣味をプレゼンテーション		〃
21	10／13	画像処理①	画像加工(1)		〃
22	10／20	画像処理②	画像加工(2)		〃
23	10／27	画像処理③	画像加工(3)		〃
24	11／10	画像処理④	画像加工(4)		〃
25	11／17	画像処理⑤	画像加工(5)		〃
26	11／24	画像処理⑥	画像処理弱点補強		〃
27	12／1	試 験	後期試験		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
28	12／8	問題作成①	問題作成		① ② ③
29	12／15	問題作成②	問題のブラッシュアップ		〃
30	12／22	問題作成③	問題のプレゼンテーション		〃

体育（前期・1単位）

D①②－0202

科目責任者：二瓶美智子（体育・非常勤）

科目担当者：①二瓶美智子（体育）

※この科目は、一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

グローバル化が進む現代社会において、コミュニケーション能力や社会的スキルが求められている。社会的スキルの充実を図るためには生活の質（QOL：Quality of life）を向上させることが重要であり、健康保持・増進、体力の維持・向上が基本となる。

フィットネストレーニングを通じて各自の健康保持・増進、体力を維持・向上させるとともに、スポーツなどのゲームを通じて、自己形成、他者との良好な関係づくりができるようになることを目的とする。また、体を動かすことを通じて楽しさを体感し、生涯スポーツとして継続できるように知識と技能を深めていく。

2. 一般目標

体を動かすことの楽しさを体験する中で、学生自身が健康保持・増進、体力の維持・向上、他者との良好な関係づくりができるようになることを目的とする。また、心身ともに豊かなライフスタイルを確立するため、身体活動の重要性について理解を深めることを目的とする。

3. 到達目標

- 1）自ら進んで運動を楽しむ能力の修得する。
- 2）運動の特性を理解する。
- 3）自身の運動能力を理解し、適切な運動方法を選択できる能力を養う。
- 4）競技特性、技術、ルール等を理解し、仲間と運動を楽しむながら協調性を養う。
- 5）自身の運動経験から、他者への助言などが出来る能力を養う。

4. 履修の進め方

体育はA・Bクラスに分かれて実施する。内容は、スポーツ実技を中心に展開していく。実技は競技種目を中心とするが、学生自身の持久力・筋力・柔軟性の向上を図るために毎回の講義でフィットネストレーニングも実施する。また、授業終了時に簡易的な授業アンケートを記載する。

5. 準備学修

準備物：動きやすい服装（ジャージ等）、シューズ（室内用）

※アクセサリや腕時計を身に付けての活動は認めない。

科目担当より次回の講義について提示された内容について、各自で15分程度の予習（競技種目のルールなど）をすること。

6. 評価方法

本授業評価については、出席状況（80％）、技能の習熟度（20％）を総合的に評価し、65点以上を合格とする。

7. 教本

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／15	・オリエンテーション ・レクリエーション	履修方法、授業計画、諸注意、レクリエーションの活動		①

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
2	4／22	・バスケットボール①	ドリブル、パス、シュート、ミニゲーム		①
3	5／13	・バスケットボール②	ドリブル、パス、シュート、ミニゲーム		〃
4	5／20	・バスケットボール③	ドリブル、パス、シュート、ミニゲーム		〃
5	5／27	・バスケットボール④	ゲーム中心		〃
6	6／1（月）	・バドミントン①	基礎基本の練習、ミニゲーム		〃
7	6／3	・バドミントン②	基礎基本の練習、ミニゲーム		〃
8	6／8（月）	・バドミントン③	基礎基本の練習、ミニゲーム		〃
9	6／10	・バドミントン④	ゲーム中心		〃
10	6／17	・卓球①	基礎基本の練習、ミニゲーム		〃
11	6／24	・卓球②	基礎基本の練習、ミニゲーム		〃
12	7／1	・卓球③	基礎基本の練習、ミニゲーム		〃
13	7／8	・バレーボール①	パス、トス、サーブ、トス、ミニゲーム		〃
14	7／15	・バレーボール②	パス、トス、サーブ、トス、ミニゲーム		〃
15	7／22	・バレーボール③	パス、トス、サーブ、トス、ミニゲーム		〃

英語基礎（通年・1単位）

D①②－0204

科目責任者：長峯 英樹（英語・講師）

科目担当者：①長峯 英樹（英語）

※この科目は、一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

当講義は英語の基礎力向上を目的とし、英文の音読とサイトトランスレーションを丁寧に行うことにより、頻出語彙や時事表現、基礎文法を学ぶ。次に、テーマに対する賛否とその根拠を整理・理解するとともに頻出の表現パターンを覚える。

2. 一般目標

英語の理解スピードと精度を向上させるために基礎的な語彙と文法を復習する。自分の意見を述べるときに役立つ表現を数多く覚える。

3. 到達目標

- 1) 基礎的な文法を復習し、表現方法の細かなニュアンスを理解できるようにする。
- 2) 国内外の社会問題の背景を英語で学び、語彙・構文、時事表現を覚える。
- 3) 論争テーマに関する賛成・反対の争点を英語で理解できるようにする。
- 4) 英語で発信するための基礎スキルを身につける。

4. 履修の進め方

英文の音読とサイトトランスレーションを丁寧に行うことにより、頻出語彙や時事表現、基礎文法を学ぶ。次に、テーマに対する賛否とその根拠を整理・理解するとともに頻出の表現パターンを覚える。

5. 準備学修

<予習>

- ①各Unitの英文の音声聞いて、発音やリズムを確認（20分）
- ②語彙の意味を確認（30分）
- ③講義で質問すべき点をリストアップ（10分）

<復習>

- ①講義で学んだ英文の音声を、発音やリズム、意味などを確認しながらリスニング（30分）

<その他>

日常的に、映画や雑誌・新聞など、できるだけ多く英語に触れるよう心がけること。

6. 評価方法

筆記試験（60%）、グループ・プレゼンテーション（20%）、出席および授業貢献度（20%）により評価し、65点以上で合格とする。筆記試験のフィードバックは基本的に次回講義時に解説し、最終試験は模範解答を全員に配布する。

7. 教本

植田一三, Pros and Cons—Discussing Today's Controversial Issues, センテージ・ラーニング

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／15	Unit 1	Internet Safety or Freedom of Expression? (1)		①

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
2	4／22		Internet Safety or Freedom of Expression? (2)		①
3	5／13	Unit 2	Honor or Burden (1)		〃
4	5／20		Honor or Burden (2)		〃
5	5／27	Unit 3	Clean Energy or Potential Threat? (1)		〃
6	6／1 (月)		Clean Energy or Potential Threat? (2)		〃
7	6／3	Unit 4	Real Risk or Great Technology? (1)		〃
8	6／8 (月)		Real Risk or Great Technology? (2)		〃
9	6／10	Unit 5	Legalization or Outlawing of Gay Marriage? (1)		〃
10	6／17		Legalization or Outlawing of Gay Marriage? (2)		〃
11	6／24	Unit 6	Separate Smoking Area or Total Ban (1)		〃
12	7／1		Separate Smoking Area or Total Ban (2)		〃
13	7／8	Unit 7	Right to Die or Responsibility to Live? (1)		〃
14	7／15		Right to Die or Responsibility to Live? (2)		〃
15	7／22	Unit 1-7	Review Test 1		〃
16	9／1	Unit 8	Punishment or Discipline? (1)		〃
17	9／8		Punishment or Discipline? (2)		〃
18	9／15	Unit 9	To Skip or Not to Skip? (1)		〃
19	9／29		To Skip or Not to Skip? (2)		〃
20	10／6	Unit 10	Performance or Seniority? (1)		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
21	10/13		Performance or Seniority? (2)		①
22	10/20	Unit 11	Free Trade or Protection? (1)		〃
23	10/27		Free Trade or Protection? (2)		〃
24	11/10	Unit 12	Animal Rights or Human Profits? (1)		〃
25	11/17		Animal Rights or Human Profits? (2)		〃
26	11/24	Unit 13	Peace Constitution or Revision? (1)		〃
27	12/1		Peace Constitution or Revision? (2)		〃
28	12/8	Unit 14	Death Penalty or Human Rights? (1)		〃
29	12/15		Death Penalty or Human Rights? (2)		〃
30	12/22	Unit 8-14	Review Test 2		〃

英語 I (通年・1 単位)

D②-0301

科目責任者：長峯 英樹 (英語・講師)

科目担当者：①長峯 英樹 (英語)

※この科目は、一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

本講義は、「英語基礎」の科目で学んだ内容の応用編である。グループワークを中心に、課題テーマについてグループで調査し、英語での発表を経験する。

2. 一般目標

国内外で論争となっている様々な社会問題の背景知識について英語で学び、論理的に自分の意見を述べるスピーキング力を身につけることである。

3. 到達目標

- 1) 「英語基礎」科目で学んだテーマについて、テキスト以外の資料を読むことで理解を深める。
- 2) 大手メディアで報道される海外の時事ニュースに慣れる。
- 3) 関心テーマについてグループで調査し、英語で発表する経験を積む。

4. 履修の進め方

「英語基礎」で学んだ知識をもとに、プレゼンテーションスキルの向上を目的とした講義内容となる。グループワークが中心となる。

5. 準備学習

「英語基礎」で使用するテキストの英文を習熟すること。講義では必要に応じてプリントなどを配布する。

また、映画や雑誌・新聞など、日常的にできるだけ多く英語に触れるよう心がけること。

6. 評価方法

筆記試験 (60%)、グループ・プレゼンテーション (20%)、出席および授業貢献度 (20%) により評価し、65点以上で合格とする。筆記試験のフィードバックは基本的に次回講義時に解説する。

7. 教本

英語基礎と同じ (植田一三, Pros and Cons-Discussing Today's Controversial Issues, センゲージ・ラーニング)

8. 参考書

特になし。

必要に応じて、新聞や雑誌などの特集記事のコピーを配布。

9. 授業内容と日程

(コ: コアカリ記号, 国: 国家試験出題基準, 担: 担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/15	Internet Regulation	Should internet content be regulated by law?		①
2	4/22		Review		〃
3	5/13	Hosting the Olympics	Will hosting the Olympics bring benefits to the host city?		〃
4	5/20		Review		〃
5	5/27	Nuclear Power Generation	Should nuclear power generation be restored in Japan?		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
6	6 / 1 (月)		Review		①
7	6 / 3	GM Foods	Should GM foods be promoted?		〃
8	6 / 8 (月)		Review		〃
9	6 / 10	Gay Marriage	Should gay marriage be legalized?		〃
10	6 / 17		Review		〃
11	6 / 24	Banning Smoking in Public Places	Should smoking be banned in public places?		〃
12	7 / 1		Review		〃
13	7 / 8	Euthanasia	Should mercy killing be legalized?		〃
14	7 / 15		Review		〃
15	7 / 22		Review Test		〃
16	9 / 1	Corporal Punishment	Is corporal punishment necessary at school?		〃
17	9 / 8		Review		〃
18	9 / 15	Grade-skipping	Should exceptionally good students be allowed to skip grades?		〃
19	9 / 29		Review		〃
20	10 / 6	Performance-based Pay System	Should the performance-based pay system be introduced?		〃
21	10 / 13		Review		〃
22	10 / 20	TPP	Is it beneficial to participate in the TPP?		〃
23	10 / 27		Review		〃
24	11 / 10	Animal Testing	Should animal testing be maintained?		〃
25	11 / 17		Review		〃
26	11 / 24	Article 9 of the Constitution	Should Article 9 of the Japanese Constitution be revised?		〃
27	12 / 1		Review		〃
28	12 / 8	Death Penalty	Should capital punishment be abolished?		〃
29	12 / 15		Review		〃
30	12 / 22		Final Test		〃

心理学概論（前期・1単位）

D①②-0205

科目責任者：車田 文雄（衛生・准教授）

科目担当者：①車田 文雄（衛生）、②鈴木 敏城（心理）

※この科目は、診療経験のある歯科医師及び、他大学の心理・発達教育相談室で心理臨床の経験を持つ公認心理師・臨床心理士である教員が担当する

1. 科目の概要

心理学はその対象となる人間存在の複雑さや曖昧さ、多様性をそのまま引き受けざるを得ず、一義的・一般的知見を抽出しにくいという学問でもある。本講義では心理学の基本的な立場を通して、人間理解の特性を学習する。また歯科医療との組み合わせを鑑み、臨床心理学を大きく取り上げ、臨床家として他者を理解・援助するにあたっての心理学的な手がかりや方法を探る。そして心理テスト等を通し、自己理解が他者理解・援助と相即することを学ぶ。

2. 一般目標

先ず、心理学の代表的な理論や人間理解の方法について説明するために、心の探究の歴史を理解する。続いて、病む人の心理ならびにその援助法にあたり、医療従事者として配慮すべきことを考えるために、臨床心理学を習得する。

3. 到達目標

- 1) 現代における心の問題を述べられる。
- 2) 心理学の基本的な立場を説明できる。
- 3) 性格を分類できる。
- 4) 歯科口腔外科領域における心身症を説明できる。
- 5) 心の援助（事例読解）を実施できる。

4. 履修の進め方

講義形式で板書およびスライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学習

予 習：シラバスにて次回講義内容箇所を確認し、予め教科書を熟読しておくこと。

復 習：板書された重要箇所をノートで確認し、質問等があれば、積極的にオフィスアワーを利用すること。

6. 評価方法

定期試験（本試験、追試験、再試験）で65点以上を合格とする。全授業範囲を記述式で実施する。

7. 教本

ベーシック心理学 第2版 二宮克美編著 医歯薬出版

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4 / 14	オリエンテーション	講義の主題と進行について		①
2	4 / 21	現代における心の問題①	虐待といじめ	／必修17-イ	〃
3	4 / 28	現代における心の問題②	嗜癖問題	／必修17-イ	〃
4	5 / 12	現代における心の問題③	アダルトチルドレン	／必修17-イ	〃
5	5 / 19	心理学の基本的な立場①	行動療法および認知療法	／必修17-イ、総論x-10-ク	②
6	5 / 26	心理学の基本的な立場②	認知行動療法	／必修17-イ、総論x-10-ク	〃
7	6 / 2	臨床心理学入門①	精神医学と主な精神疾患	E-4-5) -①／必修17-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
8	6／9	臨床心理学入門②	心因性疾患と心療歯科	E-4-5) -②, ⑤／必修17-イ	①
9	6／15(月)	心の発達①	幼年期の発達課題と危機	／必修17-イ	②
10	6／16	心の発達②	青年期の発達課題と危機	／必修17-イ	〃
11	6／23	心の発達③	成人期および高齢期の危機	／必修17-イ	①
12	6／30	性格とその把握①	性格の分類と測定法	／必修10-ケ-a, 17-イ	〃
13	7／7	性格とその把握②	エゴグラムの活用①	／必修10-ケ-a, 17-イ	〃
14	7／14	性格とその把握③	エゴグラムの活用②	／必修10-ケ-a, 17-イ	〃
15	7／21	心の援助の実際	事例読解	／必修17-イ	〃

経営学（後期・1単位）

D②-0302

科目責任者：長峯 英樹（英語・講師）

科目担当者：①長峯 英樹（英語）

※この科目は、一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

本講義では、将来、経営に関与する時に、経験や思い付きだけに頼る経営ではなく、ヒト、モノ、カネといった限られた資源と様々な市場環境の中で、迅速かつ最良の戦略を導くための基礎的なフレームワークを学ぶことを目的としている。

2. 一般目標

ケーススタディーとしていくつかの注目企業を取り上げ、ビジネスモデル・キャンパスやリーンキャンパスといった分析モデルを学ぶことにより、企業経営に興味をもってもらうことを第一の目的としている。

3. 到達目標

- 1) 基礎的な分析フレームワークの理解
- 2) 定番のビジネスモデルの概要理解
- 3) 論理的考察の基礎習得
- 4) 将来的な経営イメージ構築と継続的な考察・修正プロセスの習慣化

4. 履修の進め方

理論的フレームワークを学ぶとともに、いくつかのケースを取り上げ、考察・分析する。単なる講義形式に終始することなく、各設定テーマに関する分析と議論をグループワークや発表を通じて深めていきたい。

当科目では学生の積極的な発言や議論を歓迎し、授業貢献度として最終評価に反映させる。

5. 準備学修

指定の参考書はないが、新聞や雑誌、経営書を読むなど、日常的に経営の知識を深める努力をすること。

6. 評価方法

筆記試験（50％）、グループワーク・発表（30％）、出席および授業貢献度（20％）により評価する。フィードバックに関しては、筆記試験の場合、添削後、個人に返却し、グループ発表に対しては講義中に質疑応答の形式で行う。

7. 教本

なし。講義時に配布するプリント。

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／2	ビジネスモデル概要	事業アイディアとビジネスモデル		①
2	9／9	分析視点1	成長企業の収益モデル事例		〃
3	9／16	分析視点2	市場環境分析		〃
4	9／23	分析視点3	想定顧客と課題仮説		〃
5	9／30	分析視点4	独自の価値提案とソリューション		〃
6	10／7	分析視点5	顧客の獲得と維持		〃
7	10／14	分析視点6	利益の創出と事業拡大に向けた再投資		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
8	10／21	事例研究 1	グループワーク (1)		①
9	10／28	事例研究 2	グループワーク (2)		〃
10	11／ 4	発表とディスカッション 1	グループ発表 (1)		〃
11	11／11	発表とディスカッション 2	グループ発表 (2)		〃
12	11／18	発表とディスカッション 3	グループ発表 (3)		〃
13	11／25	発表とディスカッション 4	グループ発表 (4)		〃
14	12／ 2	発表とディスカッション 5	グループ発表 (5)		〃
15	12／ 9		最終試験		〃

郡山学／福島学（後期・1単位）

D①②－0203

科目責任者：安藤 勝（図書館）

科目担当者：①安藤 勝（図書館） ②柳田 春子（非常勤）
③市川 純一（非常勤） ④宗像 精（非常勤）
⑤八子弥寿男 ⑥川村 憲司

※この科目は、一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

私たちが生活の拠点としている郡山／福島に関する諸々の事象を地域の視点から学びます。歴史や文化を通して地域の「いま」を見つめ、ひいては地域の活性化に貢献できることを願っています。

旧制安積中学で学んだ明治時代の文芸評論家であり、思想家でもある高山樗牛は「自分が立っているところを深く掘りなさい。そこから泉が湧き出てきます」という名言を残しました。私たちは自分が「いま」「ここに」いる自分を認識し、自分の生き方を問い、足元から世界へ世界から足元へと、思考の回路を豊かにしていくことが求められます。

この科目では郡山／福島に関する自然、歴史、文化、社会、産業、人物、地域政策など多岐にわたります。地域について理解を深め、地域づくりに主体的に関わっていく力を養います。

2. 一般目標

- ・地域について学ぶ意義を理解する。
- ・歩く、見る、聞く、調べることにより、地域についてより深く知る。
- ・いま、ここにいる自分を発見する。
- ・ここから世界を見つめ、世界からここを見つめる。

3. 到達目標

- 1) 郡山、福島の歴史、地理、文化、人物、社会などについて他の人に説明ができ、文章も書ける。
- 2) 地域づくりに主体的に関わることができる。
- 3) 地域のさまざまな出来事や情報に関心がもてる。
- 4) 地域の未来像をある程度描き、述べるができる。

4. 履修の進め方

講義形式で、プリントや映像により履修する。

5. 準備学修

なし

6. 評価方法

レポート70％、出席30％

7. 教本

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／ 2	郡山の地名	郡山地名考		①
2	9／ 9	郡山の近代①	安積疏水		〃
3	9／16	郡山の人物①	安積良斎		〃
4	9／23	郡山の歴史	近世の郡山		②
5	9／30	郡山の人物②	朝河貫一 蒲生 明		①
6	10／ 7	地域と新聞	新聞を読む		③
7	10／14	会津を知る①	戊辰戦争		①
8	10／21	会津を知る②	会津のころ ・日新館		④
9	10／28	会津を知る③	野口英世		⑤

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
10	11／4	郡山の近代②	安積開拓		①
11	11／11	福島県	歴史と文化		〃
12	11／18	震災と原発	東日本大震災		〃
13	11／25	郡山のいま	未来に向けて		⑥
14	12／2	レポート発表	まとめ		①
15	12／9	レポート発表	まとめ		〃

日本語リテラシー（通年・2単位）

D②－0304

科目責任者：本多 真史（日本語・講師）

科目担当者：①本多 真史（日本語）

1. 科目の概要

「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師になる」ため、「大学で何を学ぶべきなのか」を理解し、歯学の学びに欠かせない知識・姿勢の他、倫理観をも養成しつつ、他者とのコミュニケーションが円滑にいくような技能を修得する。また、文章を正確に読み・書き、他者の意見をきちんと理解し、自らの考えを整理し、それを正しく・わかりやすく伝えることができるようにする。様々な角度から「日本語について」学び、歯学の専門学習の基礎となる日本語運用能力を養う。

2. 一般目標

「大学で学ぶ」ことに必要な、「読む、聞く、話す、書く、考える」の基本姿勢、知識、技能を身につける。また、図書館利用術や書籍・論文・資料の読解法といったリサーチ、プレゼンテーション技法、さらには論理的な文章・レポートの書き方の技能も身につける。加えて、日本語コミュニケーション能力、文章表現能力などを高め、上記の基本姿勢の他、まとめる力、伝える力をも向上させる。

3. 到達目標

- 1) 歯科医療人となるための「読む、聞く、話す、書く、考える」の基礎力を身につける。
- 2) 正確、かつ、わかりやすい日本語を用いて、説得力のある文章を作ることができる。
- 3) 論理構造を理解しつつ、書籍・論文を正確に読むことができる。
- 4) 講義及び他者の発表をきちんと聞くことができる。
- 5) 敬語を正しく使い、コミュニケーション力及びマナー力を向上させる。
- 6) 手紙、メールの正式な書き方、電話のかけ方・対応の仕方がきちんとできる。
- 7) 図書館を効果的に利用でき、情報収集能力を高める。
- 8) 歯学の専門学習に必要な「学習法」を理解できる。

4. 履修の進め方

教本及び講義資料をもとに、最初に講義形式で読解力の育成を行う。次に各回の内容に従い、参加型・実践形式で展開していく。

5. 準備学修

講義受講前に、シラバスで内容を確認し、それに関する事柄を理解しておくことが望ましい（所要時間5分前後）。日本語分野で培われる読解力、ならびに聞く力・読む力、考える力・思う力、話す力・書く力は、国家試験を解く際はもちろん、医療関係の仕事では必ず必要になる。そのため、講義受講後は、その内容を復習（所要時間30分前後）し、日頃から自然に実践できるように心がける。

6. 評価方法

定期試験（70％）、ワークシート・レポート（30回）の提出状況及びその内容（30％）で評価し、65点以上を合格とする。定期試験のフィードバックは、講義内で行う。また、ワークシート等については、点検して個人へ返却する。

7. 教本

『大学生のための日本語表現トレーニング・スキルアップ編』、『読解現代文必携 キーワードの卵』、『1日10分の言語力ドリル 聞く・話す』、『1日10分の言語力ドリル 読む』

8. 参考書

『質問力』、『大学生のための社会人入門トレーニング』、『看護系学生のための日本語表現トレーニング』、『「質問力」の教科書』

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2	4/15	オリエンテーション	大学で日本語を学ぶ意義を理解しよう		①
3	4/20 (月)	読解力向上演習(1)	「読解力」とは何かを理解しよう		〃
4	4/20 (月)	自己紹介	具体的に話そう		〃
5	4/22	読解力向上演習(2)	「論理的思考力」とは何かを理解しよう		〃
6	4/22	大学でのノートの取り方	授業を再現できるノートを作ろう		〃
7 8	5/13	図書館利用術	図書館の利用の仕方〈基礎・実践〉		〃
9	5/20	読解力向上演習(3)	「言い換える力(同等関係整理力)」とは何かを理解しよう		〃
10	5/20	読解の仕方	論文の読み方を学ぼう		〃
11	5/27	読解力向上演習(4)	文章読解問題の、読み解くべき対象について理解しよう		〃
12	5/27	読解の仕方	論文の読み方を学ぼう		〃
13 14	6/3	グループ討論1	〈実践演習〉議論してまとめる力を養おう		〃
15	6/10	読解力向上演習(5)	「読解問題における主要な設問」について理解しよう		〃
16	6/10	説明のコツ	「全体⇒部分(部分⇒全体)」で説明しよう		〃
17	6/17	読解力向上演習(6)	「比べる力(対比関係整理力)」とはどのようなものなのかを理解しよう		〃
18	6/17	アンケートの取り方	アンケート用紙の3大要素をおさえよう		〃
19	6/22 (月)	読解力向上演習(7)	生きていく上で読解力は必要であることを理解しよう		〃
20	6/22 (月)	確実なメモ	5W1Hでチェックしよう		〃
21	6/24	読解力向上演習(8)	「分かる」とは、「分ける」ことであることを知ろう		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
22	6/24	伝えるコミュニケーション	その重要性・必要性を理解しよう		①
23	7/1	読解力向上演習(9)	文章中の対比の関係を読み取ろう		〃
24	7/1	資料の読み取り	表・図・グラフから情報を抽出しよう		〃
25	7/8	読解力向上演習(10)	譲歩構文とは何かを理解しよう		〃
26	7/8	堅実なレポートの書き方	具体的な手順、体裁を身につけよう		〃
27	7/15	読解力向上演習(11)	「たどる力(因果関係整理力)」とはどのようなものなのかを理解しよう		〃
28	7/15	大学生になるということ	読む力・書く力・聞く力・議論する力を身につけよう〈まとめ1〉		〃
29 30	7/22	グループ討論2	〈実践演習〉議論してまとめる力を養おう		〃
31	9/4	読解力向上演習(12)	主張・具体例を見分けられるようになろう		〃
32	9/4	メールの書き方	依頼メールの基本を学ぼう		〃
33	9/11	読解力向上演習(13)	理由説明について学ぼう		〃
34	9/11	敬語基礎	基本ルールをマスターしよう		〃
35	9/18	読解力向上演習(14)	指示語についての理解を深めよう		〃
36	9/18	履歴書の書き方	しっかりとした履歴書を書こう		〃
37	9/25	読解力向上演習(15)	「要点把握の仕方」について学ぼう		〃
38	9/25	手紙の書き方	書式とマナーの基本を身につけよう		〃
39	10/2	読解力向上演習(16)	複数の該当箇所のまとめ方について学ぼう		〃
40	10/2	電話の応対	電話のかけ方・受け方・アポのとり方を身につけよう		〃
41 42	10/9	グループ討論3	〈実践演習〉議論してまとめる力を養おう		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
43	10／16	読解力向上演習(17)	要点の抜き取り方について学ぼう		①
44	10／16	様々な文章の読み取り方	論理的に考える力を身につけよう		〃
45	10／23	読解力向上演習(18)	段落区分について学ぼう		〃
46	10／23	要約の仕方	文章の構成を考えよう		〃
47	10／30	読解力向上演習(19)	要旨の整理とまとめ方について学ぼう		〃
48	10／30	相手を納得させるコツ	説得力のある文章の書き方を身につけよう		〃
49	11／6	読解力向上演習(20)	主張・理由・具体例のつかみ方について学ぼう		〃
50	11／6	効果的なプレゼンテーション	レジュメ・視覚資料を作成しよう		〃
51	11／13	読解力向上演習(21)	要旨を読み取ろう		〃
52	11／13	ディベートの仕方	総合的な力を身につけよう		〃
53	11／20	読解力向上演習(22)	主張・理由・具体例が区別しにくい文章に触れよう		〃
54	11／20	(小)論文の書き方	予め型を決めておこう(卒業論文を含む)		〃
55 56	11／27	歯科医療人になるということ	歯科医師に必要な能力を理解しよう(まとめ2)		〃
57 58	12／4	グループ討論4	〈実践演習〉議論してまとめる力を養おう		〃
59 60	12／11	グループ討論5	〈実践演習〉議論してまとめる力を養おう		〃

医療倫理学（後期・1単位）

D①②③－0402

科目責任者：車田 文雄（衛生・准教授）

科目担当者：①車田 文雄（衛生）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

医療倫理学は、医師・歯科医師など、医療の担い手と患者との間を調整するためのルールの学問であり、またその基盤となる人間の道徳的・倫理的・法的規範についての意識を養うことを目的とした学問である。その必要性は、医療はどんな場合でも患者の立場を重んじ、患者との信頼関係の中で行わなければならないからである。医療はそもそもの始まりから「倫理」すなわち「人間同士がお互い相手のことを考えて自分を律するルール」と一体となり行われてきたため、倫理と切り離しては成立しない。講義の各単元は相互に密接に関連しており、独立したものではないため、単なる暗記物ではあってはならず、問題意識を持ちながら臨み学ぶことが大切である。

2. 一般目標

医療倫理の必要性、すなわち医療行為の特殊性からみて、歯科医師にはその職に固くかつ道徳的な規範と自律倫理が求められることを理解し、全ての医療従事者の職業上の義務と社会における医療のあり方について検討し、問題解決のための具体的指針を習得する。

3. 到達目標

- 1) 医療倫理とは何かについて説明できる。
- 2) 倫理学について概説できる。
- 3) 医療倫理に関する規範とバイオエシックスについて説明できる。
- 4) 現代医療の倫理問題について説明できる。
- 5) 臨床現場で直面する倫理的問題を説明できる。

4. 履修の進め方

講義形式で板書およびスライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学習

予 習：新聞等から医療倫理に関わる情報を取得しておくこと。

復 習：講義内容の板書のカラー文字およびスライドにて強調された部分を復習しておくこと。

6. 評価方法

定期試験（本試験、追試験、再試験）で65点以上を合格とする。全授業範囲を記述式で実施する。

7. 教本

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／2	なぜ医療倫理学を学ぶか	医療倫理概論、歯科医師に求められる医療倫理	／必修17-イ	①
2	9／9	倫理学とは何か①	倫理の原理、倫理的行為の原則	／必修17-イ	〃
3	9／16	倫理学とは何か②	法と倫理の関係・倫理と道徳	／必修17-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4	9／23	生命・医療倫理とは何か①	バイオエシックスの誕生	A-2-①②③ ／必修1-ア-abc	①
5	9／30	生命・医療倫理とは何か②	医の倫理との相違，パターンリズム	A-2-①②③ ／必修1-ア-abc	〃
6	10／7	生命・医療倫理とは何か③	生命倫理の原則・患者の権利	A-2-①②③ ／必修1-ア-abc	〃
7	10／14	現代医療の倫理問題①	告知するための条件，末期患者の苦痛と心理	A-2-①②③ ／必修1-イ-abc	〃
8	10／21	現代医療の倫理問題②	脳死と臓器移植	A-2-①②③ ／必修1-ア-abc,15-ホ-b	〃
9	10／28	生命・医療倫理講義	患者と医療専門職①	A-2-③／必修1-ア-a,17-イ	〃
10	11／4	生命・医療倫理演習	患者と医療専門職②	A-1-①②③ ／必修1-ア-a,17-イ	〃
11	11／11	医療現場で直面する倫理的問題①	ケーススタディ，インプラント治療における倫理的問題とその解釈		〃
12	11／18	医療現場で直面する倫理的問題②	ターミナルケアとランディング	A-2-①②③ ／必修2-ア，イ	〃
13	11／25	医療面接①	医療面接の目的・基本・流れ	A-3-④，A-4-①②／必修8-ア-abc	〃
14	12／2	医療面接②	医療面接の技法①	B-2-2)-①②③⑥／必修8-イ-a～f，ウ-a～f	〃
15	12／9	医療面接③	医療面接の技法②	B-2-2)-①②③⑥／必修8-イ-a～f，ウ-a～f	〃

基礎物理学（通年・4単位）

D③－0601

科目責任者：荒木 威（物理・講師）

科目担当者：①荒木 威（物理）

1. 科目の概要

本学では「物理学」という言葉だけでアレルギー反応を起こす学生が多いです。しかし、物理学の歴史を振り返って見ると、私たちの身の回りの自然界の至る所で起こっている現象への素直な疑問がその発展の原動力でした。「基礎物理学」では物理学を日常的に感じられるように授業を進めていきます。

物理学が問題とする非常に広範な事柄，具体的には力学，熱力学，原子論から，歯学部学生にとって将来具体的に必要になると共に，広く一般教養を身につける上で大事と思われる題材を選び，授業を進めて行きます。とりわけ，エネルギーという言葉は物理を専門とする人でなくてもよく聞く言葉です。それは諸々の自然現象の中で，形態は変えるが絶対量は変化しないという性質を持ちます。そのため，例えば，歯科医師が日常的に使っているX線の被曝の程度もエネルギーを用いて測られます。エネルギーについての正しい感覚が身につくことがひとつの目標になります。

2. 一般目標

物理学に基づいた歯科医師としての客観的，合理的な判断力を養うために物理学の普遍性とその応用の広範さを理解する。

3. 到達目標

- 1) 力の作用と伝達の法則を説明する。
- 2) 力学の基本法則を説明し，物体の運動を記述する。
- 3) 様々な物理過程でのエネルギーの収支を説明する。
- 4) 熱を物体の構成粒子の運動で説明する。
- 5) 放射能を物理的に説明する。

4. 履修の進め方

板書を中心に授業を行います。学生がノートをしっかりすることを前提で板書を行います。ノートの内容を理解している事が「評価」になりますから，しっかり手を動かしてノートを取りましょう。

5. 準備学修

ノートの内容が理解できる様に予習，復習をしてください。

6. 評価方法

定期試験（70％）と中間試験（30％）で評価します。

7. 教本

シッフマン自然科学入門 新物理学（学術図書出版）

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／9	授業の案内	科目の内容の歯科的な意義を考える。	C-1	①
2	4／9		意義をまとめ授業の時期を示す。	C-1	〃
3	4／16	自然界の力	身の回りの力を認識する。	C-1	〃
4	4／16		力の伝わり方を知る。	C-1	〃
5	4／23	力の物理学	力の釣り合いと合成	C-1	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
6	4／23		力の合成	C-1	①
7	4／27 (月)		力の合成	C-1	〃
8	4／27 (月)		力の合成と釣り合いの実演	C-1	〃
9	5／7		骨格と筋肉の力のつりあい	C-1	〃
10	5／7		大きさのある物体に働く力の釣り合いと合成	C-1	〃
11	5／14		大きさのある物体に働く力の釣り合いと合成の演習	C-1	〃
12	5／14		大きさのある物体に働く力の釣り合いと合成の演習	C-1	〃
13	5／21		てこの原理	C-1	〃
14	5／21		顎の構造と歯列に働く力の釣り合い	C-1	〃
15	5／28		中間試験	C-1	〃
16	5／28		中間試験の振り返り	C-1	〃
17	6／4	ニュートン力学	運動と力	C-1	〃
18	6／4		加速度と力	C-1	〃
19	6／11		重力と重力加速度	C-1	〃
20	6／11		落下運動、走りの物理学	C-1	〃
21	6／18		投げの物理学	C-1	〃
22	6／18	仕事とエネルギー	仕事の固有性と位置エネルギー	C-1	〃
23	6／25		運動エネルギーとエネルギーの保存則	C-1	〃
24	6／25		エネルギーで物体の運動を考える。	C-1	〃
25	7／2		電気エネルギー	C-1	〃
26	7／2		水力発電のエネルギー	C-1	〃
27	7／9		弾性エネルギー	C-1	〃
28	7／9		地震と隕石のエネルギー	C-1	〃
29	7／16		問題演習	C-1	〃
30	7／16		まとめ	C-1	〃
31	9／2	熱力学	後期の授業への導入	C-1	〃
32	9／2		温度と熱	C-1	〃
33	9／9		熱量と比熱	C-1	〃
34	9／9		熱平衡状態への温度変化	C-1	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
35	9／16		圧力と大気圧	C-1	①
36	9／16		圧力の平衡	C-1	〃
37	9／23		密度計、気圧計、ポンプの限界	C-1	〃
38	9／23		気体の状態方程式	C-1	〃
39	9／30		気体分子運動と内部エネルギー	C-1	〃
40	9／30		熱と仕事の等価性、気体の熱容量	C-1	〃
41	10／7		気体の状態変化の演習	C-1	〃
42	10／7		仕事による温度変化	C-1	〃
43	10／14		物体の相転移	C-1	〃
44	10／14		中間試験	C-1	〃
45	10／21		中間試験の振り返り	C-1	〃
46	10／21	原子物理学	原子と電子	C-1	〃
47	10／28		X線の発見	C-1	〃
48	10／28		電磁波と光子	C-1	〃
49	11／4		X線管	C-1	〃
50	11／4		放射能の発見	C-1	〃
51	11／11	原子核物理学	原子核と原子模型	C-1	〃
52	11／11		原子の発光スペクトル	C-1	〃
53	11／18		原子の質量	C-1	〃
54	11／18		原子の大きさ	C-1	〃
55	11／25		核子と同位体	C-1	〃
56	11／25		原子核と放射能	C-1	〃
57	12／2		原子核反応と応用	C-1	〃
58	12／2		放射線被曝	C-1	〃
59	12／9		問題演習	C-1	〃
60	12／9		まとめ	C-1	〃

物理学実験（後期・1単位）

D③－0701

科目責任者：菊地 尚志（物理・教授）

科目担当者：①菊地 尚志（物理）、②荒木 威（物理）

1. 科目の概要

物理学が対象とするのは自然そのものです。そこで起こる様々な現象を人間の理性に則して、例えば、法則と言う形に焼き直して理解するのが物理学です。しかし、現象から法則を引き出す事は、目の前で起こる現象そのままからでは多くの二次的な要素が含まれていて困難です。そこでガリレオ以来、理性が問いかける問題点を端的に表す実験を企画しそれを通して自然を眺める事で、我々は物理学を発展させてきました。実験実習の第一の目的は、物理学のそのような性格を実感する事です。さらに、歯科医師となった時に有用な物理実験を積極的に取り入れます。

2. 一般目標

物理学が記述している事柄が現実の自然現象を表現していることを理解するために、様々な実験を実施する。その経験を通し、将来直面する問題を理性的に判断するために、合理的に解決できる能力を養う。自分の判断、解決を理路整然と文章にまとめ、他者へ説明する能力も養う。

3. 到達目標

- 1) 自然現象を説明する。③
- 2) 機器を正しく取り扱う。③
- 3) 誤差を含む数値を処理する。③
- 4) 報告書を分かり易く書く。⑥

4. 履修の進め方

実験を実施する前に担当する実験について教科書で予習し安全に実験を進める。実験での測定値が妥当なものであるか確認しながら慎重に実験を進める。実験結果を、他者に分かり易く伝えることを意識して報告書にまとめる。

5. 準備学修

実験の割り当ては毎回変わります。終了時に次の実験の割り当てをしっかりと確認して、予習をしましょう。

6. 評価方法

毎回の実験を、出席し実験を行なったとき40%、提出された報告書をその内容によって最大60%で評価する。半期分全体の成績の総和で可否を決める。

7. 教本

奥羽大学歯学部物理学教室編『物理学実験』

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	A)9/3, B)9/4	重力加速度	ボルダ振り子で重力加速度を測る。		① ②
4 5 6	A)9/10, B)9/11	ヤング率	ユーイングの装置で金属のヤング率を測る。		〃
7 8 9	A)9/18, B)9/19	ヤング率	サールの装置で金属のヤング率を測る。		〃
10 11 12	A)9/25, B)9/26	液体の密度	ヘアーの装置で液体の密度を測る。		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
13 14 15	A)10/1, B)10/2	剛性率	ねじれ振り子で金属の剛性率を測る。		① ②
16 17 18	A)10/8, B)10/9	気象	気温、気圧、湿度を測る。		〃
19 20 21	A)10/15, B)10/16	屈折率	透明な物質の屈折率を測る。		〃
22 23 24	A)10/22, B)10/23	旋光性	検糖計でショ糖の旋光性を測る。		〃
25 26 27	A)10/29, B)10/30	光のスペクトラム	分光器で様々な光源のスペクトラムを測る。		〃
28 29 30	A)11/5, B)11/6	電位	電位の空間分布を測る。		〃
31 32 33	A)11/12, B)11/13	電気抵抗	金属の電気抵抗を測る。		〃
34 35 36	A)11/19, B)11/20	電気抵抗	溶液の電気抵抗を測る。		〃
37 38 39	A, B) 11/26	熱の仕事等量	ニクロム線の電力のジュール熱への変換を測る。		〃
40 41 42	A)12/3, B)12/4	周波数と位相差	シンクロ스코ープで正弦波の位相を測る。		〃
43 44 45	A)12/10, B)12/11	半導体素子	トランジスタとダイオードの電気特性を測る。		〃

基礎化学（通年・4単位）

D③－0602

科目責任者：斎藤昇太郎（化学・講師）

科目担当者：①斎藤昇太郎（講師）

1. 科目の概要

化学は生活や産業・医療と密接な関連があり、歯学においても基本的な知識として身につけることが求められます。入学前において化学を十分に学修する機会が無かった方にも理解しやすいように、身の回りの現象や物質などの例をあげながら、大学の化学として入門・基礎的な事項を中心に講義を行います。

2. 一般目標

自然科学の基本である化学を学修することで、科学への興味・理解を深める。教養としてだけでなく、生命科学分野の知識を得ることで、基礎系科目・臨床系科目の理解・修得のために必要な知識・計算技術、および物質の構造や名称・性質を理解する。

3. 到達目標

- 1) 元素名から元素記号を、元素記号から元素名を記述できる。
- 2) 化合物について、名称から化学式を、化学式から名称を記述できる。
- 3) 基礎的な物質の名称・化学式・性質・構造を理解し説明できる。
- 4) 基本的な化学反応式が記述・説明できる。
- 5) 例題・演習を通して計算問題を解くことができる。
- 6) 構造式から、有機化合物の名称をIUPACに従って記述できる。
- 7) IUPACに従って命名された有機化合物名から構造式を記述できる。
- 8) 有機化合物名の命名法や性質・構造を理解し説明できる。

4. 履修の進め方

講義の内容は概ね教科書に沿って進めますが、教科書に記載されていない重要な内容も解説しますので復習は重要です。講義中の演習あるいは宿題により、学習が不足している要素の把握、および総合的な理解を促します。講義や教科書の内容で理解できない事項については学友と活発に議論し、解決されない疑問点は、講義直後やオフィスアワー、科目選択ゼミナールを活用して教員に遠慮なく質問してください。

5. 準備学修

事前に教科書を読み、用語や概要を理解しておくこと。（15分）

6. 評価方法

定期試験（75％）および提出物（25％）で評価する。
定期試験の解答例は教員居室に提示する。提出物は採点して返却する。

7. 教本

前期：Molly M.Bloomfield 著 伊藤俊洋 他訳「生命科学のための基礎化学－無機物理化学編」丸善出版
後期：Molly M.Bloomfield 著 伊藤俊洋 他訳「生命科学のための基礎化学－有機・生化学編」丸善出版

8. 参考書

小島一光 著 「基礎固め 化学」化学同人
斎藤勝裕 他 著 「メディカル化学」裳華房
岡崎三代 他 著 「臨床検査学講座 化学」医歯薬出版

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4／13	ガイダンス	講義の内容と進め方について、化学の概説	C-1-1),C-1-2)／必13-イ	①
2	4／13	物質の分類と性質	組成と種類、定義	C-1-1),C-1-2)／必13-イ	〃
3	4／14 (火)	測定 (1)	精確さと誤差、有効数字	C-1-1),C-1-2)／必13-イ	〃
4	4／16 (木)	測定 (2)	換算とSI単位系	C-1-1),C-1-2)／必13-イ	〃
5	4／20	エネルギー (1)	定義と種類	C-1-1),C-1-2)／必13-イ	〃
6	4／20	エネルギー (2)	保存則，エントロピー	C-1-1),C-1-2)／必13-イ	〃
7	4／27	原子の構造	原子の構成要素と原子番号	C-1-1)／必13-イ	〃
8	4／27	電子配置	化学的性質との関連	C-1-1)／必13-イ	〃
9	5／11	周期表	周期表の見方と重要性	C-1-1)／必13-イ	〃
10	5／11	生命元素	生命活動と微量元素	C-1-1)／必13-イ	〃
11	5／18	化学結合	イオン結合，共有結合	C-1-1)／必13-イ	〃
12	5／18	電気陰性度	極性と非極性，水素結合	C-1-1)／必13-イ	〃
13	5／25	化学反応式	基本的な化合物と反応	C-1-1)／必13-イ	〃
14	5／25	酸化と還元	酸化還元反応とイオン化	C-1-1)／必13-イ	〃
15	6／1	モル	アボガドロ数とモルの概念	C-1-1)／必13-イ	〃
16	6／1	モル計算	モル計算の演習	C-1-1)／必13-イ	〃
17	6／8	物質の状態と変化	物質の三態と運動量	C-1-1),C-1-2)／必13-イ	〃
18	6／8	気体	圧力と理想気体の法則	C-1-1),C-1-2)／必13-イ	〃
19	6／15	放射能 (1)	放射線と半減期	C-1-1),C-1-2)／必13-イ	〃
20	6／15	放射能 (2)	身近な放射能と生物への影響	C-1-1),C-1-2)／必13-イ	〃
21	6／22	反応速度	エネルギーと反応速度の変化	C-1-1)／必13-イ	〃
22	6／22	化学平衡	ルシャトリエの原理	C-1-1)／必13-イ	〃
23	6／29	コロイド	界面活性剤と性質	C-1-1)／必13-イ	〃
24	6／29	溶質・溶媒・溶液	電解質と非電解質	C-1-1)／必13-イ	〃
25	7／6	濃度 (1)	％，モル濃度，当量	C-1-1)／必13-イ	〃
26	7／6	濃度 (2)	濃度計算の演習	C-1-1)／必13-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
27	7/13	酸と塩基(1)	定義とpH	C-1-1) ／必13-イ	①
28	7/13	酸と塩基(2)	pHの計算	C-1-1) ／必13-イ	〃
29	7/20	酸と塩基(3)	中和反応と緩衝溶液	C-1-1) ／必13-イ	〃
30	7/20	前期の復習	演習	C-1-1) ／必13-イ	〃
31	9/1	前期試験の講評	問題の解説と要点の確認	C-1-1) ／必13-イ	〃
32	9/1	有機化合物	炭素原子の特異性	C-1-1) ／必13-イ	〃
33	9/8	飽和炭化水素(1)	アルカン	C-1-1) ／必13-イ	〃
34	9/8	飽和炭化水素(2)	炭素骨格, 構造異性体	C-1-1) ／必13-イ	〃
35	9/15	不飽和炭化水素(1)	アルケン・アルキン	C-1-1) ／必13-イ	〃
36	9/15	不飽和炭化水素(2)	シス・トランス異性体	C-1-1) ／必13-イ	〃
37	9/29	環式炭化水素(1)	シクロ化合物	C-1-1) ／必13-イ	〃
38	9/29	環式炭化水素(2)	立体異性体と表記	C-1-1) ／必13-イ	〃
39	10/6	芳香族炭化水素	ベンゼン置換体	C-1-1) ／必13-イ	〃
40	10/6	有機演習(1)	性質とIUPACの確認	C-1-1) ／必13-イ	〃
41	10/13	含酸素有機化合物(1)	アルコール	C-1-1) ／必13-イ	〃
42	10/13	含酸素有機化合物(2)	エーテル	C-1-1) ／必13-イ	〃
43	10/20	含酸素有機化合物(3)	アルデヒドとケトン	C-1-1) ／必13-イ	〃
44	10/20	含酸素有機化合物(4)	カルボン酸	C-1-1) ／必13-イ	〃
45	10/27	含酸素有機化合物(5)	エステル	C-1-1) ／必13-イ	〃
46	10/27	有機演習(2)	性質とIUPACの確認	C-1-1) ／必13-イ	〃
47	11/10	含窒素有機化合物(1)	アミン	C-1-1) ／必13-イ	〃
48	11/10	含窒素有機化合物(2)	アミド	C-1-1) ／必13-イ	〃
49	11/17	含窒素有機化合物(3)	複素環式化合物	C-1-1) ／必13-イ	〃
50	11/17	有機演習(3)	性質とIUPACの確認	C-1-1) ／必13-イ	〃
51	11/24	炭水化物(1)	単糖類の種類と構造	C-1-1),C-2-1) ／必13-イ	〃
52	11/24	炭水化物(2)	光学異性体と生理活性	C-1-1),C-2-1) ／必13-イ	〃
53	12/1	炭水化物(3)	グリコシド結合と二糖	C-1-1),C-2-1) ／必13-イ	〃
54	12/1	炭水化物(4)	多糖類	C-1-1),C-2-1) ／必13-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
55	12/8	脂質(1)	脂質の分類, 脂肪酸, 単純脂質	C-1-1),C-2-1) ／必13-イ	①
56	12/8	脂質(2)	複合脂質と誘導脂質	C-1-1),C-2-1) ／必13-イ	〃
57	12/15	タンパク質(1)	アミノ酸	C-1-1),C-2-1) ／必13-イ	〃
58	12/15	タンパク質(2)	構造と変性	C-1-1),C-2-1) ／必13-イ	〃
59	12/22	核酸	塩基とDNAの構造	C-1-1),C-2-2) ／必13-イ	〃
60	12/22	後期の復習	演習	C-1-1),C-2-1),C-2-2) ／必13-イ	〃

化学実験（後期・1単位）

D③-0702

科目責任者：阿部 匡聡（化学・講師）

科目担当者：①阿部 匡聡（化学）、②斎藤昇太郎（化学）

1. 科目の概要

歯科医学を学んでいくうえで、生命現象や物質の変化を分子機能的に捉えていく素養を身に着けることは重要である。化学実験は、基本的な化合物について、構造・性質・反応を理解するとともに、物質の濃度を測定するしくみを理解する目的で、定量分析と有機定性分析で構成されている。定量分析では、化学反応や測定機器を利用し、試料中の目的成分の定量を行う。有機定性分析では、定性反応による化合物中の特定の官能基の検出や、生成した化合物の性質・機能の解析を行う。

2. 一般目標

ディプロマポリシー（1）探求力と解決力のため、

- 1）学修者は、教本を読んで実験操作・手順を理解する。
- 2）学修者は、定量分析・有機定性分析についての基本的知識、基本的技能を習得する。

3. 到達目標

- 1）学修者は、教本に示された手順通りに、実験を行う。
- 2）学修者は、実験器具を正しく扱う。
- 3）学修者は、精密測容器具の目盛りを、正確に読み取る。
- 4）学修者は、行った実験の過程で進行した反応を説明する。
- 5）学修者は、得られた測定データや観察結果を、正確に記録する。
- 6）学修者は、記録に基づいて、正確なレポートを作成する。

4. 履修の進め方

実験実習により進める。無機定量分析では、3～4人のグループ単位で行い、得られた数値データを整理し、各人が計算やグラフ作成を行い、結論を導き出し、レポートとして記述し、提出する。有機定性分析では、個人単位で行い、得られた観察結果について、試料として用いた化合物の構造・性質に基づいた考察を行い、レポートとして記述し、提出する。

5. 準備学修

基礎化学の内容を修得しておくことが望ましい。本科目の内容は、2年次で履修する化学に接続する。さらに、歯科基礎医学に関連し、特に、口腔生化学Ⅰ、Ⅱ、生体材料・歯科材料学Ⅰ、Ⅱの履修に役立つ。

事前学習（15分）：教本の、当該項目のページを読み、実験操作の流れを把握し、記録すべき事柄チェックしておく。

事後学習（45分）：実験ノートに書いたデータ、観察結果を用いて、レポートを作成する。

6. 評価方法

提出物（レポートおよび演習課題）の評価（90%）、実習態度（10%）で評価し、65点以上で合格とする。

7. 教本

奥羽大学歯学部生体材料学講座化学分野編「化学実験テキスト」および配布プリント

8. 参考書

基礎化学の講義で使用する教科書

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/3	B ガイダンス	化学実験の概要；化学実験での注意事項	C-1-1) ／必13-1	①
2					②
3					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/4	A ガイダンス	化学実験の概要；化学実験での注意事項	C-1-1) ／必13-1	①
2					②
3					
4	9/10	B 実験準備-1：定量分析	定量分析の概要；実験器具取り扱い練習(1)	C-1-1) ／必13-1	〃
5					
6					
4	9/11	A 実験準備-1：定量分析	定量分析の概要；実験器具取り扱い練習(1)	C-1-1) ／必13-1	〃
5					
6					
7	9/17	B 中和滴定-1	中和滴定の原理；実験器具取り扱いの練習(2)	C-1-1) ／必13-1	〃
8					
9					
7	9/18	A 中和滴定-1	中和滴定の原理；実験器具取り扱いの練習(2)	C-1-1) ／必13-1	〃
8					
9					
10	9/24	B 中和滴定-2	水酸化ナトリウムの標定；塩酸の標定	C-1-1) ／必13-1	〃
11					
12					
10	9/25	A 中和滴定-2	水酸化ナトリウムの標定；塩酸の標定	C-1-1) ／必13-1	〃
11					
12					
13	10/1	B キレート滴定	Ca ²⁺ 、Mg ²⁺ 混合溶液の分別定量	C-1-1) ／必13-1	〃
14					
15					
13	10/2	A キレート滴定	Ca ²⁺ 、Mg ²⁺ 混合溶液の分別定量	C-1-1) ／必13-1	〃
14					
15					
16	10/8	B 飲料水の硬度測定	EDTAの標定；水道水および飲料水の硬度測定	C-1-1) ／必13-1	〃
17					
18					
16	10/9	A 飲料水の硬度測定	EDTAの標定；水道水および飲料水の硬度測定	C-1-1) ／必13-1	〃
17					
18					
19	10/15	B イオン電極法	試料および水道水中のF ⁻ の定量	C-1-1) ／必13-1	〃
20					
21					
19	10/16	A イオン電極法	試料および水道水中のF ⁻ の定量	C-1-1) ／必13-1	〃
20					
21					
22	10/22	B 実験準備-2：有機定性分析	有機定性分析の概要；器具の確認、取り扱いの練習	C-1-1) ／必13-1	〃
23					
24					
22	10/23	A 実験準備-2：有機定性分析	有機定性分析の概要；器具の確認、取り扱いの練習	C-1-1) ／必13-1	〃
23					
24					
25	10/29	B 炭化水素の反応	アルケンの臭素化、バイヤー試験；ベンゼンのニトロ化、スルホン化	C-1-1) ／必13-1	〃
26					
27					
25	10/30	A 炭化水素の反応	アルケンの臭素化、バイヤー試験；ベンゼンのニトロ化、スルホン化	C-1-1) ／必13-1	〃
26					
27					

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
28 29 30	11/5	B アルコールの反応	アルコールの酸化, 脱水, エステル化, ルーカス試験, ヨードホルム反応 他	C-1-1) /必13-イ	① ②
28 29 30	11/6	A アルコールの反応	アルコールの酸化, 脱水, エステル化, ルーカス試験, ヨードホルム反応 他	C-1-1) /必13-イ	〃
31 32 33	11/12	B フェノール類の反応	フェノール類の臭素化, エステル化, 塩化鉄(III)反応, 酸化的縮合 他	C-1-1) /必13-イ	〃
31 32 33	11/13	A フェノール類の反応	フェノール類の臭素化, エステル化, 塩化鉄(III)反応, 酸化的縮合 他	C-1-1) /必13-イ	〃
34 35 36	11/19	B アルデヒドおよびケトンの反応	フェーリング反応; 銀鏡反応; 酸化; ヒドラゾンの生成; アセトフェノンの生成	C-1-1) /必13-イ	〃
34 35 36	11/20	A アルデヒドおよびケトンの反応	フェーリング反応; 銀鏡反応; 酸化; ヒドラゾンの生成; アセトフェノンの生成	C-1-1) /必13-イ	〃
37 38 39	11/27	A,B 演習	化学実験の内容全般についての演習	C-1-1), C-2-1)-② /必13-イ	〃
40 41 42	12/3	B アミンの反応	アミン塩酸塩の生成; アセチル化; パラレッドの生成と染色 他	C-1-1) /必13-イ	〃
40 41 42	12/4	A アミンの反応	アミン塩酸塩の生成; アセチル化; パラレッドの生成と染色 他	C-1-1) /必13-イ	〃
43 44 45	12/10	B 糖質の反応	バーフォード反応; セリワノフ反応; フェーリング反応; 赤色テトラゾリウムの還元 他	C-1-1), C-2-1)-② /必5-ア, 必13-イ	〃
43 44 45	12/11	A 糖質の反応	バーフォード反応; セリワノフ反応; フェーリング反応; 赤色テトラゾリウムの還元 他	C-1-1), C-2-1)-② /必5-ア, 必13-イ	〃

基礎生物学 (通年・4単位)

D③-0603

科目責任者: 今井 元 (生物・准教授)

科目担当者: ① 今井 元 (生物)

1. 科目の概要

歯科医師を目指す学生は、物質の科学を基礎として、生体の構成要素である細胞、細胞によって構成された個体の機能を理解し、生物がどのように地球上で進化適応してきたか、現在どのような相互関係にあるかを修得する必要がある。本科目では、生命体の基本となる個体の階層性「細胞→組織→器官→器官系→個体」及び「その構造と機能」を歯学教育で行う系統的な体系の中で理解し、さらに、「発生過程」「進化過程」などを学ぶことにより、長期記憶を形成する。履修方法は、学習効果ピラミッドに準じて行う。具体的には、「細胞の構造」・「脊椎動物の組織」・「刺激の受容と反応」・「体内環境の維持」・「生物の個体発生と系統発生」・「生態と行動」についての講義を聴講・理解し、各講義に対する課題(問題形式)について討議した後、課題の解答をサブノートにまとめ、教え合うことによって長期記憶を形成する。

2. 一般目標

「人間性豊かな歯科医師」を目指すために、初期段階として生命科学の基礎 及び 生物学的なものの見方・考え方を通じて、科学的にものを観察・理解をする姿勢を修得する。また、専門課程で学習する高度で専門的な知識をいれる「頭の中の引き出し(脳内コンテンツ:目次)」を確立するために、脊椎動物の「体制」と「発生」を系統的に説明できるようにする。

3. 到達目標

- 1) 生命体の基本となる階層性「細胞→組織→器官→器官系→個体」を説明できる。
- 2) 生物(原核生物・真核生物など)における「細胞の構造と機能」を説明できる。
- 3) 脊椎動物における「四大組織の基本構造と機能」を分類し、系統的に説明できる。
- 4) 人体の「器官・器官系の構造と機能」を分類し、その全体像を包括的に説明できる。
- 5) 「刺激の受容と反応」における、各器官の役割の全体像を説明できる。
- 6) 「体内環境の調節と恒常性の維持」における、各器官の役割の全体像を説明できる。
- 7) 脊椎動物と人体の「生殖と初期発生」について説明できる。
- 8) 脊椎動物と人体の「各器官の発生過程」について説明できる。
- 9) 脊椎動物の「進化と多様性」「生態と行動」について説明できる。

4. 履修の進め方

履修方法は、学習効果ピラミッドに準じて行う。講義では、講義プリントを使用して履修する。項目ごとに問題形式の課題(サブノート)を用いて形成的評価をしながら進み、サブノートを作成することで履修する。また、サブノートの課題を学生自身が討議し、教え合うことで完成し、能動的に修得する。

5. 準備学習

事前学習: 配布プリント, および, 実習で用いる教科書(得意になる解剖生理学)を復習・熟読し, 高校生物学との違いを理解しておく(30分)。

事後学習: 講義後にサブノートを完成し, 講義内容のポイントを確認する。それによって, 医療系大学における脊椎動物の体(人体と構造と機能)の全

体像を理解し、2～3年次の高度で専門的な歯科基礎医学の科目（解剖学・組織学・生理学など）に備える（120分）。

6. 評価方法

定期試験および適宜試験（計4回）で評価する。すなわち、前期中間試験／前期定期試験／後期中間試験／後期定期試験は、各試験の得点にて評価する。また、最終評価は、試験の評価（75%）に各試験毎に提出する課題も試験の点数とし（25%）を加えて評価する場合がある。また、課題の提出の遅れは、10%／週の減点となる。前期中間試験の範囲は、『細胞・細胞分裂・組織』とし、6月～7月のHRの時間に行い、後期中間試験は、『刺激の受容と反応1～5』『体内環境の維持1～2, 7～21』とし、11～12月のHRで行う予定である。

7. 教本

指定しない。配布プリント・サプノートを配布し、それに沿って進める。

8. 参考書

- 1) アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻～第3巻：デイヴィッド・サダヴァ（著）
- 2) 得意になる解剖生理学—からだのしくみが目で見てわかる：美田誠二（著）照林社
- 3) ラングマン人体発生学 第10版：T.W.Sadler（著），安田峯生（翻訳）MEDSI社
- 4) 人体の正常構造と機能 改訂2版：坂井建雄，河合克雅 総編集 日本医事新報社

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／9	細胞の構造と機能①	原核(細胞)生物・真核(細胞)生物	C-2-3)／必5-ア	①
2	4／9	細胞の構造と機能②	細胞膜・核・細胞内小器官	C-2-3)／必5-ア	〃
3	4／13(月)	細胞の構造と機能③	細胞骨格・細胞外基質(1)	C-2-3)／必5-ア	〃
4	4／13(月)	細胞の構造と機能④	細胞骨格・細胞外基質(2)	C-2-3)／必5-ア	〃
5	4／16	細胞の構造と機能⑤	細胞分裂(染色質・細胞骨格の変化)	C-2-3)／必5-ア	〃
6	4／16	細胞の構造と機能⑥	細胞周期(染色質・細胞骨格の変化)	C-2-3)／必5-ア	〃
7	4／23	脊椎動物の組織1：上皮組織	上皮と腺の全体像と役割	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-ア	〃
8	4／23	脊椎動物の組織2：結合組織1	結合組織の全体像と役割	C-3-4)／必5-ア	〃
9	5／7	脊椎動物の組織3：結合組織2	軟骨の全体像と役割	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-イ	〃
10	5／7	脊椎動物の組織4：結合組織3	骨の全体像と役割	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-イ	〃
11	5／14	脊椎動物の組織5：筋組織	筋の全体像と役割	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-イ	〃
12	5／14	脊椎動物の組織6：神経組織1	神経組織と神経系の全体像と役割	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-キ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
13	5／21	脊椎動物の組織7：神経組織2	末梢神経と中枢神経の構造と機能の違い	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-キ	①
14	5／21	刺激の受容と反応1：神経系1	神経の伝導と伝達1：静止膜電位・活動電位	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-キ	〃
15	5／28	刺激の受容と反応2：神経系2	神経の伝導と伝達2：神経の伝導と伝達	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-キ	〃
16	5／28	刺激の受容と反応3：神経系3	神経の伝導と伝達3：神経の興奮から効果器までの流れ	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-キ	〃
17	6／4	刺激の受容と反応4：感覚器1	感覚と感覚受容器の全体像	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-キ	〃
18	6／4	刺激の受容と反応5：感覚器2	一般体性感覚：皮膚感覚・深部感/頭頸部の感覚	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-4-カ	〃
19	6／11	刺激の受容と反応6：感覚器3	特殊感覚1：視覚器の構造と機能の全体像	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-4-カ	〃
20	6／11	刺激の受容と反応7：感覚器4	焦点調節，眼の保護，眼球の動きの調節	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-4-カ	〃
21	6／18	刺激の受容と反応8：感覚器5	特殊感覚2：平衡聴覚器の構造と機能の全体像	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-4-カ	〃
22	6／18	刺激の受容と反応9：感覚器6	コルチ器，平衡斑，膨大部稜の構造と機能	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-4-カ	〃
23	6／25	刺激の受容と反応10：感覚器7	特殊感覚3：嗅覚器の構造と機能の全体像	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-6-ア	〃
24	6／25	刺激の受容と反応11：感覚器8	特殊感覚受容器4：味覚器の構造と機能の全体像	E-2-2)／必5-ア，総Ⅱ-6-ア	〃
25	7／2	体内環境の維持1：内分泌系1	内分泌器官の全体像と役割及び発生過程	C-3-2)，4)／必5-ア，総Ⅱ-1-ク	〃
26	7／2	体内環境の維持2：内分泌系2	体温・血糖の調節	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-ク	〃
27	7／9	体内環境の維持3：消化器系1	消化器系の全体像と役割	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-エ	〃
28	7／9	体内環境の維持4：消化器系2	口腔・咽頭と機械的消化(咀嚼・嚥下・蠕動)の概要	E-2-1)／必5-ア，総Ⅱ-6-ウ	〃
29	7／16	体内環境の維持5：消化器系3	消化管による消化と吸収：管腔内消化と膜消化	C-3-4)／必5-ア，総Ⅱ-1-エ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
30	7／16	体内環境の維持6：消化器系4	外分泌腺：胃・肝臓・胆嚢・膵臓による消化	C-3-4)／必5-ア、総Ⅱ-1-エ	①
31	9／3	体内環境の維持7：呼吸器系1	呼吸器系の全体像と役割	C-3-4)／必5-ア、総Ⅱ-1-ウ	〃
32	9／3	体内環境の維持8：呼吸器系2	呼吸のしくみと呼吸の調節	C-3-4)／必5-ア、総Ⅱ-1-ウ	〃
33	9／10	体内環境の維持9：泌尿器系1	泌尿器系の全体像と役割及び発生過程	C-3-2), 4)／必5-ア、総Ⅱ-1-カ	〃
34	9／10	体内環境の維持10：泌尿器系2	濾過・再吸収・浸透圧の調節	C-3-4)／必5-ア、総Ⅱ-1-カ	〃
35	9／17	体内環境の維持11：泌尿器系3	濾過・再吸収・浸透圧の調節	C-3-4)／必5-ア、総Ⅱ-1-カ	〃
36	9／17	体内環境の維持12：生殖器系1	生殖器の全体像と役割及び発生過程	C-3-2), 4)／必5-ア、総Ⅱ-1-カ	〃
37	9／24	体内環境の維持13：生殖器系2	生殖器のホルモン調節機構	C-3-4)／必5-ア、総Ⅱ-1-カ	〃
38	9／24	体内環境の維持14：循環器系1	循環器系の全体像と役割及び発生過程	C-3-2), 4)／必5-ア、総Ⅱ-1-ウ	〃
39	10／1	体内環境の維持15：循環器系2	心臓と血管の役割	C-3-4)／必5-ア、総Ⅱ-1-ウ	〃
40	10／1	体内環境の維持16：循環器系3	心拍数の調節(刺激伝導系と心周期・心音)	C-3-4)／必5-ア、総Ⅱ-1-ウ	〃
41	10／8	体内環境の維持17：循環器系4	血圧の調節(神経性調節・液性調節)	C-3-4)／必5-ア、総Ⅱ-1-ウ	〃
42	10／8	体内環境の維持18：血液1	血球の全体像及び造血 中間試験：生物学11～28	C-3-4)／必5-ア、総Ⅱ-1-オ	〃
43	10／15	体内環境の維持19：生体防御系1	赤血球・白血球・血小板の役割の概要	C-3-4)／必5-ア	〃
44	10／15	体内環境の維持20：生体防御系2	生体防御系の全体像 自然免疫と獲得免疫	C-4-2)／必5-ア、総Ⅱ-3-ウ、エ	〃
45	10／22	体内環境の維持21：生体防御系3	一次リンパ性器官・二次リンパ性器官	C-4-2)／必5-ア、総Ⅱ-3-ア	〃
46	10／22	生殖と初期発生(1)	生殖形成：体細胞分裂・減数分裂	C-2-3), C-3-2)／必5-ア、必6-ア	〃
47	10／29	生殖と初期発生(2)-1	生殖形成：視床下部－下垂体－性腺系の役割	C-3-2)／必6-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
48	10／29	生殖と初期発生(2)-2	排卵・受精・卵割・着床と性ホルモンの役割	C-3-2)／必6-ア	①
49	11／5	生殖と初期発生(3)	2層性胚盤の形成：内細胞塊・外細胞塊の分化	C-3-2)／必6-ア	〃
50	11／5	生殖と初期発生(4)	3胚葉の形成：2層性胚盤から3層性胚盤へ	C-3-2)／必6-ア	〃
51	11／12	生殖と初期発生(5)-1	3胚葉の分化運命：3胚葉の分化の法則	C-3-2)／必6-ア	〃
52	11／12	生殖と初期発生(5)-2	3胚葉の分化運命：初期発生に関わる遺伝子	C-3-2)／必6-ア	〃
53	11／19	器官発生と進化(1)	頭頸部と内分泌腺の器官発生の概要	C-3-2)／総Ⅱ-9-ア	〃
54	11／19	器官発生と進化(2)	口腔と顔面の器官発生の概要	E-2-3)／総Ⅱ-9-ア	〃
55	11／26	器官発生と進化(3)	呼吸器系の器官発生の概要	C-3-2)／必6-ア	〃
56	11／26	器官発生と進化(4)	消化器系の器官発生の概要	C-3-2)／必6-ア	〃
57	12／3	器官発生と進化(5)	泌尿器系の器官発生の概要	C-3-2)／必6-ア	〃
58	12／3	器官発生と進化(6)	生殖器系の器官発生の概要	C-3-2)／必6-ア	〃
59	12／10	器官発生と進化(7)-1	神経系の器官発生の概要	C-3-2)／必6-ア	〃
60	12／10	器官発生と進化(7)-2	神経系と循環器系の器官発生の概要	C-3-2)／必6-ア	〃

生物学実験（前期・1単位）

D③-0703

科目責任者：今井 元（生物・准教授）

科目担当者：①今井 元（生物）、②前田 豊信（生化）、
③古山 昭（生理）

1. 科目の概要

生命体の基本単位である細胞は、それぞれ様々な細胞小器官（オルガネラ）から構成されている。さらに、細胞が機能的な集団をなし組織系となり、その組織系の複合体が、器官となる。本科目においては、まず、動物愛護の精神（3R）を学んだ上で、植物、動物、微生物を材料とした顕微鏡観察から細胞の基本構造を把握する。また、カエルを材料とした肉眼解剖により、個体（脊椎動物）における各器官の構造と配列、さらには、基本的体制を把握する。また、これらの実験を通して、実験での心構えやルール、レポートの作成法等を学び、さらに、人体の正常構造と機能における学修項目について議論する。

2. 一般目標

生命科学教育を受け、得た知識をさらに深めるため、実際に生命体の基本構造を視覚的に理解するとともに、今後も必要になる対象の観察方法を、顕微鏡操作や解剖により修得する。

3. 到達目標

- 1) 動物愛護の精神（3つのR）を理解し、実践できる。
- 2) 顕微鏡・解剖器具が適切に使用できる。
- 3) 観察のための試料を適切に準備できる。
- 4) 細胞構造の概要を説明できる。
- 5) 細胞分裂における染色体の動態を
- 6) セントラルドグマについて説明できる。
- 7) DNAの構造と半保存的複製について説明できる。
- 8) 胚の発生過程を説明できる。
- 9) 各器官系を適切に分類できる。
- 10) 実験結果を正確、かつ、適切にまとめることができる。

4. 履修の進め方

①実習用と輪読用のプリントを班毎に輪読し予習する。②ガイダンス（映像やスライド）において、実験を行う前に取り扱う生命体についての基礎知識 及び 実習手順を理解する（60分）。③顕微鏡を適正に用いて、様々な細胞あるいはオルガネラ構造などを詳細に観察し、正しくスケッチする。また、器具を適正に用いて解剖を行い、各器官の構成や体内での配列などを詳細に観察し、スケッチする（180分）。④実習で学ぶべき学習項目について、グループディスカッション（SGD）により議論し、グループワーク（GW）プロダクトを提出する。⑤各自、実習内容をレポートやスケッチ課題にまとめ、提出期限日（原則、次の実習日）の朝8:30までに薬学実習棟3階の所定の提出場所に提出する。

5. 準備学修

事前学修：実習用と輪読用のプリントを班毎に輪読し、実習に関連する項目を調べ予習する。予習課題やグループワーク（GW）がある場合は、自習し生物学の試験の際に提出する。（30分）

事後学修：実験観察で得られたスケッチやデータをもとに、レポート課題やスケッチ課題を期日までに作成し提出する。この際、結果を下記の教本1)～3)等で得た情報をもとに解釈し、与えられた課題の意義を理解する。（120分）

6. 評価方法

リクワイアメント=レポート課題（6回）+スケッチ課題（6回）により評価し（100点）、65点以上を合格とする。また、1回欠席する毎に、最終評価から10点減ざられ、例えば、4回

欠席すると60点満点となり、不合格となる。各課題は、原則、実習日の1週間後の朝8:30までに提出する。期限に遅れた場合は、課題点が1日毎に25%減ざられる。また、GW／形成的試験（15回）の課題提出などの実習態度により、最終評価が10点まで加点されることがある。

7. 教本

- 1) 基本的に配布プリント（第1～15回生物学実験ガイダンス／輪読）で進める。
- 2) 得意になる解剖生理学：美田 誠二（著）照林社
- 3) 高校の生物学の教科書、または、参考書などを用いる。また、下記1)～4)参考書を用いる。

8. 参考書

- 1) 基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学 第2版：
和田 勝 著 羊土社
- 2) アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻～第3巻：
デイヴィッド・サダヴァ（著）
- 3) ラングマン人体発生学 第10版：T.W.Sadler（著）、
安田峯生（翻訳）MEDSi社
- 4) 人体の正常構造と機能 改訂2版：坂井建雄、
河合克雅 総編集 日本医事新報社

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3	A)4/14 B)4/10	第1回オリエンテーション：動物愛護の精神	実験目的・実験上の注意・動物愛護の精神(3R)／SGD・GW・3Rの確認試験	A-1-1), A-2-1), 2)／必1-ア	① ③
4 5 6	A)4/21 B)4/17	第2回生物学実験：顕微鏡の使い方とレポート作成	光学顕微鏡の操作法／SGD・GW・スケッチ・レポートの書き方の練習	A-2-2)／必5-ア	〃
7 8 9	A)4/28 B)4/24	第3回生物学実験：細胞と細胞小器官の観察Ⅰ	タマネギ鱗茎葉の表皮細胞の観察／SGD・GW・レポート(1)の作成	C-2-3)／必5-ア	〃
10 11 12	A)5/11(月) B)5/8	第4回生物学実験：細胞と細胞小器官の観察Ⅱ	ユスリカの唾腺染色体の観察／SGD・GW・レポート(2)の作成	C-2-3)／必5-ア	〃
13 14 15	A)5/12 B)5/15	第5回生物学実験：細胞と細胞小器官の観察Ⅲ	ラットの血球細胞の観察／SGD・GW・レポート(3)の作成	C-2-3)／必5-ア	〃
16 17 18	A)5/19(月) B)5/18	第6回生物学実験：細胞分裂①-体細胞分裂	タマネギ根端細胞の体細胞分裂の観察／SGD・GW・レポート(4)の作成	C-2-3)／必5-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
19 20 21	A)5/26 B)5/22	第7回生物学 実験：細胞分 裂②-減数分 裂	パラフィン切 片とH-E染色 法：精巣また は卵巣の染色 ／SGD・GW ・レポート(5)-1 の作成	C-3-4) ／必5-ア、 総Ⅱ-1-カ	① ② ③
22 23 24	A)6/2 B)5/29	第8回生物学 実験：細胞分 裂③-生殖 子形成	生殖形成- 減数分裂(精 細管と卵胞) の観察／SGD ・GW・レポー ト(5)-2の作成	C-3-4) ／必5-ア、 総Ⅱ-1-カ	〃
25 26 27	A)6/9 B)6/5	第9回生物学 実験：細胞分 裂④-卵割と 初期発生	カエルの卵割 と初期発生の 観察／SGD ・GW・レポー ト(6)の作成	C-3-2) ／必6-ア	〃
28 29 30	A)6/16 B)6/12	第10回生物 学実験：動物 の組織	動物の組織： 四大組織のス ケッチの練習 ／SGD・GW ・スケッチ課 題Ⅰの作成	C-3-4) ／必5-ア	〃
31 32 33	A)6/23 B)6/19	第11回生物 学実験：器官 系の分類Ⅰ (カエルの解剖)	外形と消化器 官系・呼吸器 系の観察／ SGD・GW・ スケッチ課題 Ⅱの作成	C-3-4) ／必5-ア、 総Ⅱ-1-エ	〃
34 35 36	A)6/30 B)6/26	第12回生物 学実験：器官 系の分類Ⅱ (カエルの解剖)	心臓と泌尿生 殖器系・脈管 系の観察／ SGD・GW・ スケッチ課題 Ⅲの作成	C-3-4) ／必5-ア、 総Ⅱ-1-ウ、 カ	〃
37 38 39	A)7/7 B)7/3	第13回生物 学実験：器官 系の分類Ⅲ (カエルの解剖)	筋肉系と神経 系の観察と神 経筋標本の作 成／SGD・GW ・スケッチ課 題Ⅳの作成	C-3-4) ／必5-ア、 総Ⅱ-1-イ	〃
40 41 42	A)7/14 B)7/10	第14回生物 学実験：器官 系の分類Ⅳ (カエルの解剖)	頭骨と神経孔 の観察／SGD ・GW・スケッ チ課題Ⅴの作 成	E-2-1) ／必5-ア、 総Ⅱ-4-イ	〃
43 44 45	A)7/21 B)7/17	第15回生物 学実験：歯の 機能の違い	さまざまな動 物の頭骨と歯 の観察／SGD ・GW・スケッ チ課題Ⅵの作 成	E-3-1) ／必5-ア、 総Ⅱ-5-ア	〃

歯科医学演習（前期・1単位）

D①②③-0405

科目責任者：杉田 俊博（病院・教授）

科目担当者：①杉田 俊博（病院）、②菊井 徹哉（修復）、
③木村 裕一（歯内）、④高橋 慶壮（歯周）、
⑤高橋 昌宏（イン）、⑥高橋文太郎（外科）、
⑦山森 徹雄（有床）、⑧山崎 信也（麻酔）、
⑨島村 和宏（小児）、⑩福井 和徳（矯正）、
⑪原田 卓哉（放射）、⑫佐々木重夫（歯内）、
⑬清野 晃孝（病院）、⑭馬場 優（医学）、
⑮羽鳥 弘毅（冠橋）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医学および歯科医療を学ぶ者にとって、歯科医学と歯科医療における知識、歯科医療の技術および歯科医師としての態度を習得することは必須の要件である。歯科医学と歯科医療の知識は一般教養科目、基礎歯科医学、社会歯科学及び臨床歯科医学の各科目を通して修得し、歯科医療の技術と歯科医師としての態度は、臨床歯科医学の模型実習と臨床実習や社会歯科学と倫理学等を通して学習する。このなかで、技術の学習は歯科医療にとって重要であり、歯科医学で学んだ理論を実践するうえで不可欠である。

歯科医学演習は、歯科医療の技術を学ぶために必要な基礎技術の訓練とともに、これから6年間にわたって歯科医学を学習する動機付けとして位置づけられる科目である。学習方法には、手指の動作を訓練するために日常生活のなかから選ばれた身近なテーマや、臨床歯科医学の教育内容と密接な「道具と手」に係わる演習が主体となる。

教育スタッフは、本学の臨床系科目を担当する講座から選出された教員によって組織されている。楽しみながら手指の動作や歯科医療に使用する器具とその使い方等を学び、歯科学生としての自覚を芽生えさせて欲しい。

2. 一般目標

専門課程における各科実習を行うために、基礎的な技術訓練に係る知識、技能および態度を習得する。

3. 到達目標

- 1) 学生同士で口腔内の状態を記録する。
- 2) 歯の硬組織治療を模倣して、歯冠修復における造形的治療を理解する。
- 3) 歯内治療で用いる器具の操作を模倣する。
- 4) ブラークコントロール、とりわけ歯周病患者のブラッシング方法を習得する。
- 5) 彫刻刀を利用して、石膏を実際に彫刻する。
- 6) 外科手術の縫合を想定した糸結びを実践する。
- 7) クラスプワイヤーの屈曲を体験する。
- 8) マネキンで一次救命処置を実践する。
- 9) 顔の形態を評価する。
- 10) 小児の治療を想定した器具の使用法を実践する。
- 11) エックス線検査および超音波検査を実践する。
- 12) インプラント治療の特徴と意義を説明する。
- 13) 頭頸部の診察をする。
- 14) 口腔内状態を正確に診療録に記載する。
- 15) 手洗いを実践する。
- 16) バイタルサインの測定を習得する。

4. 履修の進め方

スライドと資料を使用し、各分野の特徴的な技術を演習形式で履修する。

5. 準備学修

授業内容についてのポイントをまとめること。

6. 評価方法

到達目標をすべて達成した場合に100点とし、1)～16)をミニマムリクワイアメントとする。

7. 教本

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2	(A)4/10 (B)4/14	口腔診断	口腔内検査を体験する	E-1-1) ／必9-ア～エ, 10-イ	①
3 4	(A)4/17 (B)4/21	保存修復学	歯の治療(窩洞形態)を模倣する	E-3-3)-(1) ／各Ⅲ-5-イ, ウ	②
5 6	(A)4/24 (B)4/28	歯周病学	プラークコントロール,とりわけ歯周病患者のブラッシング方法の習得	E-3-3)-(3) ／各Ⅲ-8-ア, 9-イ	④
7 8	(A)5/8 (B)5/11 (月)	歯内療法学	根管治療器具の基本操作を実践する	E-3-3)-(2) ／各Ⅱ-2-ア, イ	③
9 10	(A)5/12 (B)5/26	冠橋義歯学	彫刻刀を用いて石膏棒を削る	E-3-4)-(1) ／各Ⅳ-3	⑮
11 12	(A)5/18 (月) (B)5/19	口腔外科学	手術器具を知り,縫合を体験する	E-1-5)／ 総Ⅶ-4,5-ア	⑥
13 14	(A)5/22 (B)5/15	有床義歯学	クラスプワイヤーの屈曲を体験する	E-3-4)-(2)／ 必-12-ケ-e	⑦
15 16	(A)5/29 (B)6/2	歯科麻酔学	マネキンで一次救命処置(BLS)を実践する	E-1-6)	⑧
17 18	(A)6/5 (B)6/9	小児歯科学	小児の身体・精神的特徴を理解する	E-4-2) ／必12-ウ	⑨
19 20	(A)6/12 (B)6/16	歯科矯正学	自己顔の形態を評価する	E-4-1) ／各Ⅰ-3	⑩
21 22	(A)6/19 (B)6/23	歯科放射線学	エックス線の撮影・画像処理をする	E-1-2) ／各Ⅸ-2	⑪
23 24	(A)6/26 (B)6/30	口腔院プラント学	インプラント治療の意義と特徴を理解する	E-3-4)-(3)／ 各Ⅳ-6	⑤
25 26	(A)7/3 (B)7/7	臨床総合演習①	頭頸部の診察 口腔内状態の記録	F-2-2)-(3)／ 必-10-オ-a,c, d	⑫ ⑬
27 28	(A)7/10 (B)7/14	臨床総合演習②	手指の消毒を実践する	F-3-1)-(1)／ 総Ⅷ-4,5-ア	⑥
29 30	(A)7/17 (B)7/21	総合臨床医学	バイタルサインを実践する	E-6 ／総Ⅶ-1-エ	⑧ ⑭

歯科医療概論 (前期・1単位)

D①②③-0404

科目責任者:大野 敬 (外科・教授)

科目担当者:①大野 敬 (外科)

※この科目は,診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医師を目指して歯学部に入学者として,歯科医学を学び歯科医療を行う上で必要な心構えと6年間の学習の目標を設定することは重要である。また歯科医療ではどのようなことを行うのかを理解し,早期に歯科医師になるための意識を持たせることが必要である。

2. 一般目標

歯学部学生としての心構えと目標を設定するために,歯科医学と歯科医療の概要を理解する。

3. 到達目標

- 1) 歯科医師の使命,魅力について説明する。
- 2) 歯科医学教育について説明する。
- 3) 歯科学生に必要な学修態度,学修方法を説明する。
- 4) 歯科医師として求められる基本的な資質について説明する。
- 5) 歯科医療と社会との関わりについて説明する。

4. 履修の進め方

文書視覚媒体と投影視覚媒体および配布資料を用いて履修する。

5. 準備学修

事前学習:配布資料を熟読しておくこと。(10分)

事後学習:受講後に,その内容を復習すること。(15分)

6. 評価方法

講義内容について,時間内に講義した内容について小論文を行い,65点以上を合格とする。

7. 教本

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	序説	本学の理念と歴史	—	①
2	4/16	教育目標	本学の歯学教育と教育システム	—	〃
3	4/23	基本事項1	医の倫理と歯科医療の意義	A-1.2／必1-ア	〃
4	4/27 (月)	基本事項2	歯科医師の責務	A-3／必1-イ	〃
5	5/7	基本事項3	インフォームドコンセント	A-4／必1-イ	〃
6	5/14	対人関係能力1	歯科医師に必要なコミュニケーション	A-7／必9-ア	〃
7	5/21	対人関係能力2	歯科における医療面接	A-7／必9-ウ	〃
8	5/28	医療安全1	歯科医療における安全性の確保	A-5／必2-オ	〃
9	6/4	医療安全2	医療上の事故等への対処と予防	A-5／必2-オ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
10	6／11	医療安全3	医療従事者の健康と安全	A-5／必2-オ	①
11	6／18	チーム歯科医療1	歯科における医療連携	A-7／必8-ア.イ	〃
12	6／25	チーム歯科医療2	歯科医師の社会貢献	B-2／必8-ア.イ	〃
13	7／2	学修方法	歯学教育における学修法	—	〃
14	7／9	生涯学習	歯科医師の生涯学習	A-6／必1-ア	〃
15	7／16	まとめ	歯科医療の未来	—	〃

基礎歯学概論Ⅰ（通年・2単位）

D②－0501

科目責任者：安部 仁晴（組織・准教授）

科目担当者：①安部 仁晴（組織）、②岡田 英俊（材料）、
③宇佐美晶信（解剖）、④川合 宏仁（生理）、
⑤清浦 有祐（感染）、⑥大須賀謙二（生理）、
⑦芹川 雅光（解剖）、⑧中川 敏浩（組織）、
⑨古山 昭（生理）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医師として身につけなければならない知識を習得する上で、専門基礎科目は特に重要となる。その中で、2年時の履修科目となる専門基礎科目を中心に、履修前に予備知識として知っておくべき概論や要点について早期に学習する。

2. 一般目標

ディプロマ・ポリシー（3）の病態を解析するための基礎となる第2学年時の履修科目である専門基礎科目を中心に、その知識を習得する。

3. 到達目標

- 1) 歯と歯周組織の種類とそれらの微細構造を説明する。
- 2) 口腔顎顔面の形態の概要について説明できる。
- 3) からだの基本的なはたらきを説明できる。
- 4) 微生物の構造とその病原性を説明する。
- 5) 歯の発生と加齢変化について説明する。
- 6) 微生物感染に対するヒトの免疫応答を説明する。
- 7) 歯科材料、診療用機械について基本的な事項を説明できる。

4. 履修の進め方

講義主体でスライド、プリント、板書で適宜進める。ノートを取り、プリントに追記する。

5. 準備学修

講義担当者から配布される資料や、図書館の資料を用いる。また、事前に次回プリントを配布される場合は、講義前にプリントを熟読しておくこと（事前学習15分）。加えて、講義受講後に、その内容を復習すること（事後学習30分）。

6. 評価方法

定期試験（100％）で評価し、65点以上を合格とする。定期試験のフィードバックは、答案を開示して適宜行う。

7. 教本

講義担当者から配布される資料を用いる。生体材料学では、スタンダード歯科理工学 第6版（学健書院）を持参すること。

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	口腔組織学概論①	歯の構造（エナメル質）	E-3-1） ／必5-ア 総Ⅱ5-イ	①
2	4／17	生体材料学概論①	歯科修復用材料（1）	D-1,-2 ／総Ⅷ	②
3	4／24	口腔解剖学概論①	歯の解剖（総論）	E-3-1） ／総Ⅱ-5-ア	③
4	5／8	口腔生理学概論①	体液	C-2 ／総Ⅲ-1	④
5	5／15	生体材料学概論②	歯科修復用材料（2）	D-1,-2 ／総Ⅷ	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
6	5/22	口腔感染免疫学概論①	微生物の種類とその感染様式について	C-4-1) -①, ②/ 総Ⅲ-1-カ-b,c	⑤
7	5/25 (月)	口腔組織学概論②	歯の構造(象牙質)	E-3-1) / 必5-ア 総Ⅱ5-イ	①
8	5/29	生体材料学概論③	歯科修復用材料(3)	D-1,-2 / 総Ⅷ	②
9	6/5	口腔解剖学概論②	歯の解剖(各論)	E-3-1) / 総Ⅱ-5-ア	③
10	6/12	口腔生理学概論②	循環と呼吸	C-2 / 総Ⅲ-2	⑥
11	6/19	生体材料学概論④	歯科修復用材料(4)	D-1,-2 / 総Ⅷ	②
12	6/26	口腔感染免疫学概論②	細菌の種類とその病原性について	C-4-1) -①/ 総Ⅲ-1-カ-b	⑤
13	7/3	口腔解剖学概論③	骨学	C-3-4) / 必5-ア	⑦
14	7/10	生体材料学概論⑤	歯科修復用材料(5)	D-1,-2 / 総Ⅷ	②
15	7/17	口腔組織学概論③	歯の構造(歯髄)	E-3-1) / 必5-ア 総Ⅱ5-イ	⑧
16	9/4	口腔生理学概論③	細胞膜と膜電位	C-2/ 総Ⅲ-1	⑨
17	9/11	口腔感染免疫学概論③	ウイルスの種類とその病原性について	C-4-1) -①/ 総Ⅲ-1-カ-b	⑤
18	9/18	口腔組織学概論④	歯周組織の構造1	E-3-1) / 必5-ア 総Ⅱ5-イ	①
19	9/25	口腔解剖学概論④	脈管学	C-3-4) / 必5-ア	⑦
20	10/2	口腔生理学概論④	口腔感覚	E-2 / 総Ⅳ-1,-2,-4	⑨
21	10/9	口腔感染免疫学概論④	真菌及び原虫の種類とその病原性について	C-4-1) -②/ 総Ⅲ-1-カ-b	⑤
22	10/16	口腔組織学概論⑤	歯周組織の構造2	E-3-1) / 必5-ア 総Ⅱ5-イ	⑧
23	10/23	口腔解剖学概論⑤	神経学	C-3-4) / 必5-ア	⑦
24	10/30	口腔生理学概論⑤	自律機能	C-2/ 総Ⅲ-2	⑥
25	11/6	口腔感染免疫学概論⑤	滅菌と消毒の種類とそのメカニズム	C-4-1) -④/ 必修12-エ-a	⑤
26	11/13	口腔組織学概論⑥	歯の発生	E-3-1) / 必6-ウ 総Ⅱ9-イ	①
27	11/20	口腔解剖学概論⑥	筋学	C-3-4) / 必5-ア	③
28	11/27	口腔生理学概論⑥	内分泌	C-2/ 総Ⅲ-2	⑥
29	12/4	口腔感染免疫学概論⑥	微生物感染に対する防御メカニズム	C-4-2) -①, ②,③/ 総Ⅱ-3-ウ,エ	⑤

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
30	12/11	口腔組織学概論⑦	歯と歯周組織の加齢変化	E-2-3) / 必6-エ 総Ⅱ8-エ 各Ⅴ2-イ	①

臨床歯学概論（前期・1単位）

D①②③-0403

科目責任者：杉田 俊博（病院・教授）

科目担当者：①杉田 俊博（病院）、②菊井 徹哉（修復）、
③木村 裕一（歯内）、④高橋 慶壮（歯周）、
⑤高橋 昌宏（イン）、⑥高橋文太郎（外科）、
⑦山森 徹雄（有床）、⑧山崎 信也（麻酔）、
⑨島村 和宏（小児）、⑩福井 和徳（矯正）、
⑪原田 卓哉（放射）、⑫鈴木 史彦（麻酔）、
⑬佐々木重夫（歯内）、⑭馬場 優（医学）、
⑮羽鳥 弘毅（冠橋）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医師を目指して歯学部に入學した直後に歯科医療の現場を知ること、これから6年間の勉強の目標を設定するうえで重要なことである。歯科医師に求められる資質には、①社会人として信頼できること、②歯科医療に対する知識・技能を有すること、③保健に関する助言・援助ができること、④生涯にわたり研修意欲を持ち続けること、⑤患者に対して十分な説明を行い、同意を得るという考え方を尊重すること、などがある。

2. 一般目標

歯科医学・歯科医療を学ぶ目標を設定するために、先進的かつ近未来の歯科医療の現場を視覚的に理解し、歯科医療を行う上での問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決できる力を身につける。

3. 到達目標

- 1) 歯科の臨床を視て今後の学習の目標を認識する。
- 2) う蝕・非う蝕性硬組織疾患の種類と歯冠修復治療の概要を把握する。
- 3) 歯内療法の概要を説明する。
- 4) 歯周病学について概説する。
- 5) クラウンブリッジにより補綴治療を説明する。
- 6) 口腔外科領域で行われる小手術を列挙する。
- 7) 有床義歯による欠損補綴の概要を説明する。
- 8) 歯科麻酔科の仕事内容を説明する。
- 9) 歯科矯正治療の手順を説明する。
- 10) 乳幼児期の特徴について概論を理解する。
- 11) 画像検査法の目的と意義を説明する。
- 12) インプラントによる補綴治療を説明する。
- 13) 摂食嚥下リハビリテーションを説明する。
- 14) 障がい者の概要を説明する。
- 15) 歯科医師に必要な医学知識を習得する。

4. 履修の進め方

基本的には講義形式でスライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学修

授業内容についてのポイントをまとめること。

6. 評価方法

担当教員の各レポート提出をする。各レポートは秀（35点）・優（30点）・良（20点）・可（10点）・不可（0点）で採点し、平均点を65点に加点して最終評価とする。

7. 教本

なし

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2	(A)4/10 (B)4/14	科目の説明	基本的診療技能	E-1-1) / 必9-ア～エ, 10-イ	①
3 4	(A)4/17 (B)4/21	歯冠修復治療	う蝕と硬組織疾患の診断と治療	E-3-3)-(1) / 各Ⅲ-2-ア, イ	②
5 6	(A)4/24 (B)4/28	歯周治療	歯周疾患の病態、診断および治療	E-3-3)-(3) / 各Ⅲ-8-ア, 9-イ	④
7 8	(A)5/8 (B)5/11 (月)	歯内治療	歯髄・根尖歯周疾患の診断と治療	E-3-3)-(2) / 各Ⅱ-2-ア, イ	③
9 10	(A)5/12 (B)5/26	冠橋義歯治療	クラウンブリッジの治療	E-3-4)-(1) / 各Ⅳ-3	⑮
11 12	(A)5/18 (月) (B)5/19	口腔外科治療	小手術の基本	E-1-5) / 総Ⅶ-4-ア	⑥
13 14	(A)5/22 (B)5/15	有床義歯治療	有床義歯による欠損補綴の概要	E-3-4)-(2) / 必-1	⑦
15 16	(A)5/29 (B)6/2	歯科麻酔治療	歯科麻酔の基本	E-1-4)	⑧
17 18	(A)6/5 (B)6/9	小児歯科治療	小児の歯科治療	E-4-2) / 必6-イ	⑨
19 20	(A)6/12 (B)6/16	歯科矯正治療	不正咬合の治療	E-4-1) / 各Ⅰ-3-フ	⑩
21 22	(A)6/19 (B)6/23	歯科放射線治療	画像検査	E-1-2) / 各Ⅸ-2	⑪
23 24	(A)6/26 (B)6/30	インプラント治療	インプラントによる補綴治療	E-3-4)-(3) / 各Ⅳ-6	⑤
25 26	(A)7/3 (B)7/7	摂食嚥下治療	摂食嚥下リハビリテーションの基本	E-5-1) / 各Ⅴ-6-ア～オ	⑫
27 28	(A)7/10 (B)7/14	障がい者歯科診療	スペシャルニーズを有する人への対応	E-5-2), 必-2-ア, 総Ⅴ-3-ア, イ,ウ,オ	⑬
29 30	(A)7/17 (B)7/21	歯科と医学の知識	歯科と医学の知識	E-6 / 総Ⅶ-1-エ	⑭

臨床心理学Ⅰ（後期・1単位）

D①②③－0401

科目責任者：鈴木 敏城（心理・講師）

科目担当者：①鈴木 敏城（心理）

※この科目は、他大学の心理・発達教育相談室で心理臨床の経験を持つ公認心理師・臨床心理士である教員が担当する

1. 科目の概要

臨床心理学とは、様々な心の障害を乗り越えようとする人間を心理学的に支援する学問である。人間存在が持つ様々な悩み、悩みに陥る心の構造とプロセス、支援の方法を学んでいく。「臨床心理学Ⅰ」では、代表的な精神疾患および心理的問題を項目別に学んでいく。

2. 一般目標

臨床心理学の基礎を学び、人間が人間を心理的に支援することの意味と患者の立場や背景を理解する（ディプロマ・ポリシー「1」に該当する）。

臨床心理学を学ぶことで、医療者として患者に思いやりを持った言動に心がけると共に、患者を尊重することの重要性を理解する（ディプロマ・ポリシー「1」に該当する）。

臨床心理学の知識を生かし、自己のパーソナリティ特性を理解する。

3. 到達目標

- 1) ストレス障害について説明できる。
- 2) うつ病について説明できる。
- 3) 統合失調症について説明できる。
- 4) 不安障害について説明できる。
- 5) 心身症について説明できる。
- 6) 依存症について説明できる。
- 7) 発達障害について説明できる。
- 8) 愛着障害について説明できる。
- 9) パーソナリティ障害について説明できる。
- 10) 自殺予防、自傷行為の予防について説明できる。

4. 履修の進め方

授業ではまず、その時間のテーマが示される。次ぎにそのテーマに沿った質問が明示される。学生は各自で質問について考え、次ぎにグループで対話する。その後グループ毎に発表する。教師は学生の発表をまとめ、その後プリントを配付し講義を行う。本科目では、このようにアクティヴ・ラーニングを重視した授業を行う。アクティヴ・ラーニングを重視したプロセスで授業を行うことによって、学生に対して臨床心理学を学ぶための動機付けを行うとともに、授業の双方向性も重視する。つまり、授業をとおして学生のコミュニケーション能力も開発していく。

5. 準備学修

予習：次時のテーマについて、歯科医療の場面で自分であれば、どのように対応するかを具体的に考えておく。

復習：授業中の思考、対話、発表、講義の内容を自分の問題としてまとめておく。

6. 評価方法

定期試験（100％）で評価し、100点満点で65点以上の者を合格とする。

7. 教本

なし。毎回プリントを配付する。

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／2	ストレス対応とPTSD	ストレッサーとストレス反応、ストレスコーピング。PTSDの予防	E-5,6／総Ⅳ 2キ,Ⅶ1エg	①
2	9／9	うつ病の予防	うつ病の心理特性と対応及び予防	E-5,6／総Ⅳ 2キ,Ⅶ1エg	〃
3	9／16	自殺の予防	自殺の心理特性と対応及び予防	E-5,6／総Ⅳ 2キ,Ⅶ1エg	〃
4	9／23	自傷行為の予防	自傷行為の心理特性と対応及び予防	E-5,6／総Ⅳ 2キ,Ⅶ1エg	〃
5	9／30	統合失調症	統合失調症の症状と対応	E-5,6／総Ⅳ 2キ,Ⅶ1エg	〃
6	10／7	依存症	依存症の分類と心理特性	E-5,6／総Ⅳ 2キ,Ⅶ1エg	〃
7	10／14	摂食障害	摂食障害の心理特性と対応	E-5,6／総Ⅳ 2キ,Ⅶ1エg	〃
8	10／21	不安障害	不安障害の心理特性と対応	E-5,6／総Ⅳ 2キ,Ⅶ1エg	〃
9	10／28	パニック障害	パニック障害の心理特性と対応	E-5,6／総Ⅳ 2キ,Ⅶ1エg	〃
10	11／4	心身症と歯科心身症	心身症の心理特性と不安障害との相違	E-5,6／総Ⅳ 2キ,Ⅶ1エg	〃
11	11／11	パーソナリティ障害	パーソナリティ障害の分類及び心理特性と対応	E-5,6／総Ⅳ 2キ,Ⅶ1エg	〃
12	11／18	発達障害	発達障害の分類及び心理特性と対応	E-5,6／総Ⅳ 2キ,Ⅶ1エg	〃
13	11／25	愛着障害	愛着障害の原因及び対応	E-5,6／総Ⅳ 2キ,Ⅶ2オ,Ⅶ1エg	〃
14	12／2	災害心理学	災害を含めた危機状況での心理	E-5,6／総Ⅳ 2キ,Ⅶ1エg	〃
15	12／9	まとめ	全体の振り返り、ポイントの整理	E-5,6／総Ⅳ 2キ,Ⅶ1エg	〃

歯科医療人間学Ⅰ（後期・2単位）

D①-0101

科目責任者：中川 敏浩（生体構造学講座・准教授）

科目担当者：①中川 敏浩（組織）、②瀬川 洋（衛生）、
③吉田いくよ（非常勤）、④鈴木 俊子（非常勤）、
⑤本多 真史（日本語）、⑥鈴木 敏城（心理）、
⑦清浦 有祐（感染）

※この科目は、一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

歯科医療人間学（Dental Practice Human Science）は、本学歯学部目的である「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師の養成」を実践する学問であり、高度専門職業人（プロフェSSIONAL）としての歯科医師である前に社会人としての素養、教養および社会適応能力を高揚し、自らのホスピタリティマインドに加えて、患者中心の医療を全人的に捉えるため、身体面、心理面、社会面、倫理面の各要素を総合的かつ包括的に理解し、「歯科医療の安全・安心・信頼の文化」を醸成することにある。

2. 一般目標

人間性豊かな優れた歯科医師となるために、大学で学ぶ目的を明確化し、歯学医療現場にふれ、基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度、知識および技能を修得する。

3. 到達目標

- 1) 医療人として謙虚な態度と傾聴力を養う。
- 2) 患者の訴えを正確に聞き取る。
- 3) 平易な言葉で順序立てて説明する。
- 4) 医療現場で必要な言葉でコミュニケーションする。

4. 履修の進め方

グループおよびペアによる学修を行う。授業形態はプリントを配布し、レポート提出形式をとることもあるので受動的な学習でなく、必ず参加が義務づけられる能動的学習である。

5. 準備学修

予習：シラバスで内容を確認する。また、人と接する時は状況を把握し、意識をして対応することを日頃から心がける。（30分）

復習：プリント学修や実演したことを自然に実践できるように日々訓練をする。

6. 評価方法

記述式試験等により形成的評価を行う。

7. 教本

日本学術振興会編 「科学の健全な発展のために一誠実な科学者の心得」 テキスト版 日本学術振興会 2015年

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	8/31	1-A パフォーマンス学総論①	自分をどのように表現するかを実感する	A-7-1)-①② ③/必修-8- イ-a～f	① ③ ④
2	8/31	1-B コミュニケーションの基礎①	コミュニケーションに必要なことを演習する	A-7-1)-①② ③/必修-8- イ-a～f	⑤
3	9/7	1-A コミュニケーションの基礎①	コミュニケーションに必要なことを演習する	A-7-1)-①② ③/必修-8- イ-a～f	〃
4	9/7	1-B パフォーマンス学総論①	自分をどのように表現するかを実感する	A-7-1)-①② ③/必修-8- イ-a～f	① ③ ④
5	9/14	1-A あいさつについて	あいさつの重要性を実感し、信頼関係の重要性について演習する	A-7-1)-①② ③/必修-8- イ-a～f	〃
6	9/14	1-B コミュニケーションの基礎②	コミュニケーションに必要なことを演習する	A-7-1)-①② ③国：必修- 8-イ-a～f	⑤
7	9/28	1-A コミュニケーションの基礎②	コミュニケーションに必要なことを演習する	A-7-1)-①② ③/必修-8- イ-a～f	〃
8	9/28	1-B あいさつについて	あいさつの重要性を実感し、信頼関係の重要性について演習する	A-7-1)-①② ③/必修-8- イ-a～f	① ③ ④
9	10/5	1-A エニアグラム－表現・自他の理解の為に－	エニアグラムにより自他のタイプを知り人間関係の構築に役立てる	A-7-1)-①② ③/必修-8- イ-a～f	〃
10	10/5	1-B 医療と敬語について①	医学用語と一般用語の関連	A-7-1)-①② ③国：必修- 8-イ-a～f	⑤
11	10/12	1-A 医療と敬語について①	医学用語と一般用語の関連	A-7-1)-①② ③国：必修- 8-イ-a～f	〃
12	10/12	1-B エニアグラム－表現・自他の理解の為に－	エニアグラムにより自他のタイプを知り人間関係の構築に役立てる	A-7-1)-①② ③/必修-8- イ-a～f	① ③ ④
13	10/19	1-A 説明力－伝える話し方－	伝えるではなく伝わる論理的な会話の仕方を学ぶ	A-7-1)-①② ③/必修-8- イ-a～f	〃
14	10/19	1-B 医療と敬語について②	医学用語と一般用語の関連	A-7-1)-①② ③国：必修- 8-イ-a～f	⑤
15	10/26	1-A 医療と敬語について②	医学用語と一般用語の関連	A-7-1)-①② ③国：必修- 8-イ-a～f	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
16	10／26	1－B 説明力－伝わる話し方－	伝えるではなく伝わる論理的な会話の仕方を学ぶ	A-7-1)-①②③／必修-8-イ-a～f	①③④
17	11／2	1－A グループディスカッション	文章から事実を理解要約し、考えや意見を伝える	A-7-1)-①②③／必修-8-イ-a～f	〃
18	11／2	1－B 医療人の怨・態度・傾聴力	痛みに対する歯科医師の態度表現を会得する	A-7-1)-①②③／必修-8-イ-a～f	⑤
19	11／9	1－A 医療人の怨・態度・傾聴力	痛みに対する歯科医師の態度表現を会得する	A-7-1)-①②③／必修-8-イ-a～f	〃
20	11／9	1－B グループディスカッション	文章から事実を理解要約し、考えや意見を伝える	A-7-1)-①②③／必修-8-イ-a～f	①③④
21	11／16	1－A ビジネスマナー	社会人としてのマナーの基礎を学ぶ	A-7-1)-①②③／必修-8-イ-a～f	〃
22	11／16	1－B 歯科診療とアサーション①	患者の訴えを、ソフトな言葉で会話する	A-7-1)-①②③／必修-8-イ-a～f	⑤
23	11／30	1－A 歯科診療とアサーション①	患者の訴えを、ソフトな言葉で会話する	A-7-1)-①②③／必修-8-イ-a～f	〃
24	11／30	1－B ビジネスマナー	社会人としてのマナーの基礎を学ぶ	A-7-1)-①②③／必修-8-イ-a～f	①③④
25	12／7	1－A 表現・自分を 知る	演習を通し、自分の表現を客観視する	A-7-1)-①②③／必修-9-イ-a～f	〃
26	12／7	1－B 歯科診療とアサーション②	患者の訴えを、ソフトな言葉で会話する	A-7-1)-①②③／必修-8-イ-a～f	⑤
27	12／14	1－A 歯科診療とアサーション②	患者の訴えを、ソフトな言葉で会話する	A-7-1)-①②③／必修-8-イ-a～f	〃
28	12／14	1－B 表現・自分を 知る	演習を通し、自分の表現を客観視する	A-7-1)-①②③／必修-9-イ-a～f	①③④
29	12／21	1－A, B 研究倫理	研究者に求められる研究倫理と研究不正防止の試み	A-6-2)／必修-17-イ	⑦
30	12／21	1－A, B 形成的評価	形成的評価試験を行う	A-7-1)-①②③／必修-8-イ-a～f, 9-イ-a～f	①⑥

総合演習1D(通年)

D①②③－0800

科目責任者：今井 元 (生物・准教授)

科目担当者：①今井 元 (生物), ②斎藤昇太郎 (化学), ③本多 真史 (日本語), ④廣瀬 公治 (衛生), ⑤阿部 匡聡 (化学), ⑥鈴木 厚子 (生化), ⑦山野辺晋也 (矯正), ⑧下記の特別講師, ⑨病院見学／MT研修の各診療科担当教員, ⑩菊地 尚志 (物理), ⑪車田 文雄 (衛生), ⑫鈴木 敏城 (心理), ⑬荒木 威 (物理), ⑭長峯 英樹 (英語)

※この科目は、診療経験のある歯科医師及び一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師になるためには、チーム医療を実践できる教養と能力が必要である。チーム医療を実践するためには、他の医療スタッフと互いの専門性を尊重できる確かな教養、コミュニケーション能力とプロフェッショナルリズムの修得が必要である。奥羽大学は、歯学と薬学の医療人を養成する全国でも数少ない大学であるため、これを活用し、2学部連携した演習を行い、チーム医療の基礎となる医療人として教養、心構えと態度を修得する。さらに、年度末には教養科目の総復習も行い、これらを確実なものとする。

2. 一般目標

医療人として確かな教養、必要な心構えと態度（道徳観・倫理観・創造力・探求心・研究志向・問題解決力・コミュニケーション・プロフェッショナルリズム）を理解した上で、チーム医療を実践できる豊かな人間性を修得する。

3. 到達目標

- 1) 医療人としての社会的立場を理解できる。(倫理観)
- 2) 医療人としての良心と尊厳や、人道的な配慮を理解できる。(道徳観)
- 3) 歯科医師に対する現代社会のニーズを理解できる。(創造力)
- 4) 社会の新しいニーズに対応できる姿勢を身につける。(探求心)
- 5) 自ら問題点を抽出し、解決する研究姿勢を身につける。(研究志向・解決力)
- 6) 医療人として好ましい態度で他者と接することできる。(態度)
- 7) 医療人として適切な発言・行動を身につける。(コミュニケーション能力)
- 8) 他医療職を尊重した円滑なチーム医療を行う。(プロフェッショナルリズム)
- 9) 薬害の原因、健康被害、社会的影響を考察する。(患者中心の医療・至誠)
- 10) 医療人としての教養の基礎を修得する。(医療人としての教養)

4. 履修の進め方

以下の3形式によって履修を進める。

- 1) 講演+スモールグループ・ディスカッション (SGD) 形式の場合
 - ①学内や学外の特別講師をお招きし、講演を聴講する。
 - ②講演後、SGDで要点を抽出し、プロブレムマップ／メモリーツリーを作成する。
 - ③項目にまとめて提出し、SGDに対するレポートを作成する。
- 2) 演習形式 (病院見学・MT研修・ワールドカフェ・問題解決型演習)

①体験した事や議論内容の要点を抽出し、レポートを作成する。

3) 講義形式

各科目ごとの問題に解答し、問題解決型の演習を行う。

日程時間割は【1D総合試験のA問題、B問題】の科目順に行う。

5. 準備学修

チーム医療学の事前学修：シラバスや掲示板を確認し、必要な準備を行う。

①SGDの方法（KJ法、ワールドカフェ、PBL、TBL）などについて調べる。

②講演や演習の場所と集合時間は掲示で確認しておく。

中央棟6階教3／第2講義棟第1講義室／中央棟5階模型実習室／講義棟第2講義室／病院棟5階臨床講義室など（30分）

チーム医療学の事後学修：実験観察で得られたスケッチやデータをもとに、レポートを期日までに作成し提出する。この際、結果を下記の教本1)～3)等で得た情報をもとに解釈し、与えられた課題の意義を理解する。（120分）

教養科目：各科のシラバスに掲載された方法に准じる。

6. 評価方法

6／29～11／16のチーム医療学演習は、リクワイアメント=レポート点（100%）で評価し、65点以上を合格とする。また、11／30～3／1の教養科目の講義は、総合試験1Dにて評価し、70%以上を合格とする。尚、チーム医療学演習と総合演習1Dの出席をあわせて、80%以上なければ、総合試験1Dの受験資格を失う。

7. 教本

指定しない。スライドや配布資料などにより進める。

8. 参考書

各科目の教本に准じる。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	特別講師(コ/国)	担
1 2 3 4	6／29	第1回チーム医療学演習／ガイダンス	特別講演(1)『効果的な学習法・学習態度・体験談』・SGD演習・レポート作成	研修歯科医・社会人大学院生・附属病院助教	① ⑧
5 6 7 8	7／6	第2回チーム医療学演習	特別講演(2)『20年後の歯科医療』・SGD演習・レポート作成	杉田俊博 教授(総合診療歯科学)	〃
9 10 11 12	7／13	第3回チーム医療学演習	特別講演(3)『総合病院における歯科の役割とは』・SGD演習・レポート作成	高田訓 教授・小坂橋勉非常期講師(口腔外科学)	〃
13 14 15 16	7／20	第4回チーム医療学演習	特別講演(4)『歯科医師会と歯科医師の将来のために』・奥羽大学歯学部同窓会の役割と活動』・レポート作成	高田訓 教授(口腔外科学)・福島県歯科医師会の招待講師	〃

17 18 19 20	A)8／31 B)9／7	第5回チーム医療学演習	A) ワールドカフェ B) 人間性豊かな医療人(問題解決型演習)	山崎信也 教授(歯科麻酔学) 1学年学年主任	① ⑧
21 22 23 24	A)9／7 B)8／31	第6回チーム医療学演習	A) 人間性豊かな医療人(問題解決型演習) B) ワールドカフェ		〃
25 26 27 28	9／14	第7回チーム医療学演習	特別講演(5)『病院見学の意義、医療事故、院内感染』・SGD演習・レポート作成	福井和徳 教授(歯科矯正学)	〃
29 30 31 32	A)9／28 B)10／5	第8回チーム医療学演習	A) 病院見学 B) 医療チーム(MT)研修・レポート作成	清野晃孝 准教授(総合診療歯科学) 鈴木史彦 准教授(歯科麻酔学)	① ⑨
33 34 35 36	A)10／5 B)9／28	第9回チーム医療学演習	A) 医療チーム(MT)研修 B) 病院見学・レポート作成		〃
37 38 39 40	10／12	第10回チーム医療学演習	歯薬合同セミナー (1)『薬害と社会』・SGD演習・レポート作成	薬害被害者増山ゆかり先生(財) いしづえ理事	① ⑧
41 42 43 44	10／19	第11回チーム医療学演習	歯薬合同セミナー (2)『認知症サポーター講習』・SGD演習・レポート作成	押尾茂 教授(薬学部教授)	〃
45 46 47 48	10／26	第12回チーム医療学演習	歯薬合同セミナー (3)『B型肝炎患者の感染拡大防止及び偏見差別防止』・SGD演習・レポート作成	B型肝炎患者	〃
49 50 51 52	11／2	第13回チーム医療学演習	特別講演(6)『効果的な学習法』『定期試験・総合試験1Dについて』	山崎信也 教授(歯科麻酔学) 今井元 准教授(生物学)	〃
53 54 55 56	11／9	第14回チーム医療学演習	特別講演(7)『大学教員を目指す諸君に伝えたいこと』	清浦有祐 教授(大学院研究科長)	〃
57 58 59 60	11／16	第15回チーム医療学演習	特別講演(8)『歯科基礎医学研究の1例』	今井元 准教授(生物学) 総合演習1D科目責任者	〃

回	月日	タイトル	授業内容	特別講師(コ/国)	担
61	11/30	総合演習1D -A1 心理学概論	心因性疾患と 心療歯科、性 格の分類と測 定法	E-5-3) ①～ ⑥/総V2-オ abc, 13-イ	⑪
62	11/30	総合演習1D -A2 医療倫理学	生命倫理の原 則、患者の権 利、医療面接 の技法	A-1-1) ①～ ⑥, A-1-2) ①～④A-4- 1) ①②③/ 必1-アab, 1-イab, 必9 -ウabc	〃
63	11/30	総合演習1D -A3 臨床心理学	さまざまな精 神疾患や心理 的葛藤の原因、 症状、治療 法や対応につ いて	E-5, 6/総 IV2-キ, VII-エg	⑫
64	11/30	総合演習1D -A4 基礎物理学1	物質界の基本 法則(1)	C-1-2)	⑬
65	12/7	総合演習1D -A4 基礎物理学2	物質界の基本 法則(2)	C-1-2)	〃
66	12/7	総合演習1D -A4 基礎物理学3	力と運動(1), 力と運動(2)	C-1-2)	〃
67	12/7	総合演習1D -A5 基礎化学1	原子構造と電 子配置 周期表と化学 的性質	C-1-1) / 必 13-イ	②
68	12/7	総合演習1D -A5 基礎化学2	化学結合	C-1-1) / 必 13-イ	〃
69	12/14	総合演習1D -A5 基礎化学3	化学反応, 反 応速度, 化学 平衡, 酸, 塩 基, pH	C-1-1) / 必 13-イ	〃
70	12/14	総合演習1D -B1 日本語リテラ シー	医療コミュニ ケーションの 進め方(1)	コA-4-1), A-4-2) / 必 -9-アc・d, 必-9-ウa～c	③
71	12/14	総合演習1D -B2 統計数学1	統計の基礎	C-1-2)	⑩
72	12/14	総合演習1D -B2 統計数学2	統計手法の適 用	C-1-2)	〃
73	12/21	総合演習1D -B3 英語	英文読解, 英 会話		⑭
74	12/21	総合演習1D -B4 基礎生物学1	生体の分子/ 細胞の代謝, 遺伝子, 生殖 と初期発生	C-2-1) ～3), C-3-2) / 必 5-ア, 総Ⅱ -9-ア	①
75	12/21	総合演習1D -B4 基礎生物学2	脊椎動物の組 織と機能	C-3-4) / 必 5-ア, 総Ⅱ -1-ア～ク	〃
76	12/21	総合演習1D -B4 基礎生物学2	刺激の受容と 反応 体内環境の維 持	C-3-2), 4) / 必5-ア, 総 Ⅱ-1-ア～ク, 総Ⅱ-4-カ.Ⅱ -6-ア, ウ	〃